

日本鉄道保存協会総会 2025

2025（令和 7）年 10 月 4 日（土）～5 日（日）
青森県七戸町



レールバス キハ101とキハ102

ごあいさつ

会員の皆さまにおかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃、当会の活動には格別のご支援、ご協力を賜り、深謝いたします。

さて、日本鉄道保存協会は平成3年（1991）に設立、今年（令和7年）で34年を迎えます。設立のきっかけは、(財)観光資源保護財団（日本ナショナルトラスト）が、我が国初の市民等による寄付金を基に、昭和62年（1987）年7月25日に大井川鐵道で「トラストトレイン」の動態保存を開始したことによります。当時、全国各地を見渡せば、大井川鐵道をはじめ、明治村、丸瀬布町（現・遠軽町）等、歴史的車両を動態保存する事例がいくつか見られました。そこで、将来に亘り、力を合わせて一緒に活動を広げることを目的に設立を目指しました。

しかし、JR、民鉄、市民団体、自治体、博物館など性格の違う組織が同じ土俵に上がる団体などは絶対に出来ないと苦言を呈した方も居りましたが、青木栄一、小池 滋、松澤正二の各先生方のご指導もあり、動態保存の先進地である英国に範をとり、34年前に7団体が集い東京駅のステーションホテルで設立総会を行いました。*JR ガゼットに掲載（本テキストP62参照）

以来、小池 滋先生曰く「楽しく、焦らず、末永く」を合言葉にゆるりとしたネットワーク活動を行って参りました。現在、正会員57、賛助会員6、友の会員27を数えますが、新たな展開の時期が訪れていると思います。

今年の総会、見学会は正会員の一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会がご担当です。長年、地域に根差した活動を通じ、レールバス等の歴史的車両を動態保存されてこられた実績は光り輝いております。その根底にあるのが地元七戸町の皆さまや七戸町役場との信頼関係です。かつてのよそ者は、今や七戸町の活性化を目指すための信頼できるパートナーとなったのです。この結果、鉄道遺産を生かした七戸町らしい観光づくりが開花したと言えるでしょう。ご参加の皆さま、じっくりと同会の活動をご体感ください。そして大きなエールを送ってください。

最後に、開催にあたり格別のご高配を賜りました青森県や七戸町の皆さまに心より、お礼申し上げます。

令和7年10月吉日
日本鉄道保存協会代表幹事団体
公益社団法人横浜歴史資産調査会
常務理事 米山淳一

日本鉄道保存協会

2025年度総会・講演会・見学会プログラム

日時： 2025年（令和7年） 10月4日（土）・5日（日）

開催地：青森県七戸町

後援：七戸町

総会・講演会・交流会会場：七戸中央公園ふれあいセンター

見学会会場：南部縦貫レールバス（旧七戸駅構内）

10月4日（土）

◎集合 JR 東北新幹線七戸十和田駅

送迎バス JR 東北新幹線七戸十和田駅発 12:20 12:40 13:00

12:30 受付開始（ふれあいセンター）

13:30 総会開始

主催者挨拶	日本鉄道保存協会顧問	花上嘉成
代表幹事団体挨拶	公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事	米山淳一
来賓挨拶	七戸町長	田嶋邦貴
総会議事・報告		菅 建彦

14:30 講演会

①開催地報告「南部縦貫レールバス愛好会の歩みと未来（仮）」

映像「レールバス保存 28 年のあゆみ」

一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会代表理事

星野正博

②講演「七戸町と鉄道（仮）」（予定）

青森県交通・地域社会部生活文化課総括主幹

中園 裕

15:35 （休憩 10 分）

15:45 シンポジウム テーマ「レールバスはみんなの宝」

＊パネリスト

清水目美光（東北軌道工業）

吉川正純（七戸町在住）

四戸一枝（南部縦貫鉄道元社員）

中園 裕（青森県交通・地域社会部生活文化課総括主幹）

星野正博（一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会）

＊コーディネーター

高嶋修一（日本鉄道保存協会顧問・青山学院大学教授）

17:00 総括・閉会挨拶

日本鉄道保存協会顧問 菅 建彦

17:20 情報交換会 ふれあいセンターにて

10月5日（日）

7:30 朝食 お弁当配布

8:45 見学会会場（七戸駅）行きバス送迎

★ふれあいセンター発 8:45（1便） 9:15（2便）

★七戸十和田駅発 9:45（はやぶさ1号 9:34着に接続）

（他所宿泊の方は七戸十和田発9:45のバスをご利用ください）

10:00 七戸駅構内見学開始 お弁当配布

レールバス体験乗車など

13:30 見学会終了（全車両入庫完了）

13:40 ★七戸十和田駅行き送迎バス 13:40以降ピストン輸送

（はやぶさ28号東京行 14:53発乗車可能）

日本鉄道保存協会(RPSJ)2025年度総会 出欠一覧表

2025年9月11日 現在

資 格	所 属		役 職	氏 名	総会	交流会	宿泊	見学会
顧問				花上 嘉成	◎	○	◎	○
顧問				菅 建彦	◎	○	◎	○
顧問				大島 登志彦	◎	○	◎	○
顧問				辻 聡	◎	○	◎	○
顧問				高橋 一字				
顧問	青山学院大学			高嶋 修一	◎	○	◎	○
正会員	遠軽町	丸瀬布総合支所		上戸 智仁				
正会員	陸別町商工会(ふるさと銀河線りくべつ鉄道)	商工会議所		杉本 武勝	◎	○	◎	○
正会員	三笠市	商工観光課		中老田 悠丞				
正会員	三菱大夕張鉄道保存会			和田 宏士				
正会員	NPO法人オホーツク鉄道歴史保存会		理事長	長南 進一				
正会員	北海道旅客鉄道株式会社	運輸部運用課		木立 智英				
正会員	江別煉鉄の会			川島 雅一				
正会員	有島記念館		学芸員	伊藤 大介	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			小川 清之	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			星野 正博	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			野平 茂雄	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			宮崎 真二	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			三瓶 嶺良	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			山崎 和正	◎	○	◎	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			山崎 朗	◎	○	—	○
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			山崎 好子	◎	○	—	○
正会員	七百レールファンクラブ			野田 悟				
正会員	小坂鉄道保存会			吉野 幸裕	◎	○	◎	○
正会員	小坂鉄道保存会			吉野 千鶴子	◎	○	◎	○
正会員	小坂鉄道保存会			大谷 清次	◎	○	◎	○
正会員	小坂鉄道保存会			長渕 勇一	◎	○	◎	○
正会員	小坂鉄道保存会			亀沢 彩人	◎	○	◎	○
正会員	小坂鉄道保存会			寺山 好典	◎	○	—	○
正会員	栗原市(くりはら田園鉄道公園)			高橋 尚史	◎	○	◎	○
正会員	栗原市(くりはら田園鉄道公園)			千田 順一	◎	○	◎	○
正会員	栗原市(くりはら田園鉄道公園)			秋葉 隆史	◎	○	◎	○
正会員	東北鉄道資料保存協議会	みちのく鉄道応援団		日下 敏彦				
正会員	真岡線SL運行協議会			浅川 健				
正会員	一般社団法人 あしおトロッコ館			北川 潤	◎	○	◎	○
正会員	鹿島鉄道保存会		代表	加藤 三千尋	◎	○	—	○
正会員	鹿島鉄道保存会		副代表	長津 博樹	◎	○	—	○
正会員	鹿島鉄道保存会		副代表	野澤 秀幸	◎	○	—	○
正会員	鹿島鉄道保存会		参与	大庭 亮胤	◎	○	—	○
正会員	鹿島鉄道保存会		参与	木瀬 若桜	◎	○	—	—
正会員	銚田駅保存会			川津 重夫	◎	○	◎	○
正会員	陸・海・空・宇宙のテーマパーク「ユメノバ」	テーマパーク・観光部門統括		野口 稔夫	◎	○	—	○
正会員	一般財団法人碓氷峠交流記念財団(碓氷峠鉄道文化むら)		事務局長	小崎 正人				
正会員	一般社団法人電鉄文化保存協会		代表理事	岩崎 直彦				
正会員	日本工業大学 技術博物館		技術担当	五月女 浩樹				
正会員	秩父鉄道株式会社	技術部車両課		木村 壯史				
正会員	東日本旅客鉄道株式会社	総務部企画グループ		大野 啓介				
正会員	公益財団法人 東日本鉄道文化財団			小野山 万貴子	◎	—	—	—
正会員	一般財団法人 東武博物館		管理課長	伊藤 美千夫	◎	○	◎	○
正会員	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	事業課		大久保 優美				
正会員	清瀬市	経営政策部参事		木原 雄嗣	◎	—	—	—
正会員	横浜市電1156号保存会			齋藤 大起				
正会員	公益社団法人横浜歴史資産調査会		常務理事	米山 淳一	◎	○	◎	○
正会員	新潟市新津鉄道資料館	新津鉄道資料館	副館長	加藤 裕之				
正会員	上松町(赤沢森林鉄道)			織田 藍				
正会員	信濃追分駅舎・可惜(あたら)会		会長	那須 由莉				
正会員	足久保鐵道株式会社		代表取締役	玉井 宏政	◎	○	◎	○
正会員	大井川鐵道株式会社			鴨田 善英				
正会員	東海旅客鐵道株式会社(リニア・鉄道館)			松井 友誠	◎	—	—	—
正会員	公益財団法人 博物館明治村			近藤 雅隆				
正会員	NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会		理事長	村上 真善	◎	○	◎	○
正会員	NPO法人 神岡・町づくりネットワーク		理事長	鈴木 進悟				
正会員	公益社団法人長浜観光協会(長浜鉄道スクエア)			中川 岳人				
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会	南越前町役場		山本 啓博				
正会員	NPO法人 北国鉄道管理局		代表理事	岩谷 淳平				
正会員	NPO法人貨物鉄道博物館		常務理事	南野 哲志				
正会員	西日本旅客鐵道株式会社			青木 豊太	◎	○	—	—
正会員	西日本旅客鐵道株式会社	広報部鉄道文化推進室		川口 穂高	◎	○	—	○
正会員	公益財団法人交通文化振興財団		交通資料センター長	川端 英登				

資 格	所 属		役 職	氏 名	総会	交流会	宿泊	見学会
正会員	旧加悦SL広場(宮津海陸運輸株式会社)		管理課長	柴田 万喜也				
正会員	NPO法人加悦鐵道保存会		理事長	上野山 博己				
正会員	片上鐵道保存会		代表幹事	甲本 康則				
正会員	若桜駅を元気にする会			北内 泰久	◎	○	◎	○
正会員	若桜駅を元気にする会			前住 孝行	◎	○	◎	○
正会員	若桜駅を元気にする会			森田 二郎	◎	○	◎	○
正会員	NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取		事務局長	太田 縁				
正会員	山口線SL運行対策協議会	観光プロジェクト推進室		武安 つとむ				
正会員	西条市(鐵道歴史パーク in SALJO)			加藤 圭哉	◎	○	◎	○
正会員	馬路村(魚梁瀬森林鐵道)	やなせ森林鐵道運営委員会		安養寺 史一				
正会員	宇高連絡船愛好會		代表	三村 卓也	◎	○	◎	○
正会員	九州旅客鐵道株式会社	広報部		小玉 宗盛				
正会員	北九州線車輛保存会		代表	手嶋 康人	◎	○	◎	○
正会員	北九州線車輛保存会			毎熊 晃	◎	○	◎	○
正会員	北九州線車輛保存会			谷本 悠	◎	○	◎	○
賛助会員	日本鐵道写真作家協会			長根 広和	◎	○	◎	○
賛助会員	日本鐵道写真作家協会			都築 雅人	◎	○	◎	○
賛助会員	有限会社レイルマン・フォト・オフィス		代表	山崎 友也				
賛助会員	有限会社鐵道フォーラム			伊藤 博康	◎	○	◎	○
賛助会員	株式会社井門コーポレーション			丹下 昭英	◎	○	◎	○
賛助会員	株式会社東海汽缶		取締役業務統括部長	石川 寛之				
賛助会員	株式会社ヤマネ		技術部課長	高見 浩	◎	○	◎	○
友の会				赤羽 誠	◎	○	◎	○
友の会				安倍 敏陽	◎	○	◎	○
友の会				阿部 豊				
友の会				岩野 弘一	◎	○	◎	○
友の会				加藤 圭哉				
友の会				河合 桃子	◎	○	◎	○
友の会				神崎 史恵	◎	○	◎	○
友の会				神野 清司				
友の会				倉繁 聡	◎	○	◎	○
友の会	小樽市総合博物館			佐藤 卓司	◎	○	◎	○
友の会				柴山 純一				
友の会				杉崎 行恭				
友の会				関田 克孝				
友の会				関本 康人				
友の会				瀬端 浩之				
友の会				田口 由加子	◎	○	◎	○
友の会				橘 秀幸	◎	○	◎	○
友の会				田中 光一	◎	○	-	○
友の会				田中 浩史	◎	○	◎	○
友の会	寒川鐵道保存会			塚本 健太	◎	○	-	○
友の会				長野 光芳				
友の会				西尾 恵介	◎	○	◎	○
友の会				野田 知毅				
友の会				水野 彌彦				
友の会				名取 紀之				
友の会				須藤 哲也	◎	○	-	○
友の会				畠山 明久	◎	○	◎	○
友の会				村上 旭				
オブザーバー				西村 海香	○	○	○	○
オブザーバー				大内 渉	○	○	○	○
オブザーバー				日暮 成一	○	○	○	○
オブザーバー				松本 新一				
オブザーバー	株式会社 ヤシマキザイ			飯塚 一明	○	○	○	○
オブザーバー	津輕鐵道	総務課		白鳥 泰				
オブザーバー	しなの鐵道(株)			唐澤 貴之				
オブザーバー				上村 宗貴				
オブザーバー	王寺町 未来都市創造部	地域交流課観光振興係		藤澤 浩				
オブザーバー	(株)翠明荘 万葉超音波温泉 鐵道車両事業部			利根川 智史	○	○	-	○
オブザーバー	羅須地人鐵道協会			加部 一彦	○	○	-	○
オブザーバー	東京都交通局			遠藤 徳保	○	○	-	-
オブザーバー				立川 芳行	○	○	○	○
オブザーバー				二階堂 行宣	○	-	-	○
オブザーバー	天竜レトロ・トレインクラブ			山崎 義和	◎	○	◎	○
事務局	日本鐵道保存協会		事務局長	米山 淳一				
事務局	日本鐵道保存協会		事務局	河合 桃子				
事務局	日本鐵道保存協会		事務局	田中 光一				
事務局	日本鐵道保存協会		事務局	赤羽 誠				

日本鉄道保存協会 会員名簿

2025.09.10.現在

<凡 例>

番 号	団 体 名 (施設名)
〒	団体所在地 / 連絡先住所
	電話番号 / Fax 番号
	団体代表者名
	RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

01 遠軽町 (旧丸瀬布町)

〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長	佐々木修一
係 長	上戸 智仁 (☆)

02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)

〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長	石橋 強
事務局長	杉本 武勝 (☆)

03 三笠市 (三笠鉄道村)

〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880

市 長	西城 賢策
主 事	中老田悠丞 (☆)

04 三菱大夕張鉄道保存会

〒078-8219 北海道旭川市 9 条通 2 0 丁目 1959-3-101

代表	和田 宏士 (☆)
----	-----------

- 05 NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会
〒090-1817 北見市常盤町 2-4-53
Tel 090-9524-9315

理事長

長南 進一 (☆)

- 06 北海道旅客鉄道株式会社
〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786

代表取締役社長
運輸部運用課

綿貫 泰之
木立 智英 (☆)

- 07 江別煉鉄の会
〒067-0012 江別市 2 条 2 丁目 6 旧北陸銀行内
Tel 090-9967-1971

会長

石田武史 (☆)

- 08 NPO 北海道鉄道文化保存会 ※新加入
〒047-0041 小樽市手宮 1 丁目 3 番 6 号 小樽市総合博物館内
Tel 0134-61-7777 Fax 0134-61-7777

理事長

清水 道代 (☆)

- 09 有島記念館 (ニセコ鉄道遺産群)
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島 57
Tel 0136-44-3245 Fax 0136-55-8484

館長
学芸員

寺嶋 弘道
伊藤大介 (☆)

- 10 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会
〒133-0051 江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel 03-3672-7709

代表理事

星野 正博 (☆)

- 11 七百レールファンクラブ (七百鉄道記念館)
〒270-1154 我孫子市白山 1-26-26
Tel 090-2520-2629

会 長
副会長

斎藤 正
野田 悟 (☆)

- 12 小坂鉄道保存会（小坂鉄道レールパーク）
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉾山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002
- 代 表 千葉 裕之
総務企画局長 亀沢 修（☆）
- 13 栗原市（くりはら田園鉄道公園）
〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市田園観光課
Tel 0228-22-1151 Fax 0228-22-0315
- 市 長 佐藤 智
商工観光課 菊地 壮（☆）
- 14 東北鉄道資料保存協議会（みちのく鉄道応援団）
〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3
Tel 090-6854-9258 Fax 022-248-9258
- 代表幹事 佐藤 茂（☆）
- 15 真岡線 SL 運行協議会
〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152
- 会 長（真岡市長） 中村 和彦
事務局長 谷口 栄治
担 当 浅川 健（☆）
- 16 一般社団法人 あしおトロッコ館
〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-93-0189
- 総務担当 岡本 憲之（☆）
- 17 鹿島鉄道保存会（鹿島鉄道記念館）
〒332-0003 川口市東領家 4-3-14
株式会社バレア
Tel 048-223-5088 Fax 048-278-6067
- 代 表 加藤三千尋（☆）
- 18 鉾田駅保存会
〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735
- 理 事 川津 重夫（☆）

- 19 ユメノバ（レールパーク）
〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
広沢商事株式会社内
Tel 0296-48-7417 Fax 0296-48-7419
- 代 表 廣澤 清
担 当 野口 稔夫（☆）
- 20 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団（碓氷峠鉄道文化むら）
〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111
- 代表理事 富安 良司
館 長 山岸由美子
事務局長 小崎 正人（☆）
- 21 一般社団法人電鉄文化保存会
〒152-0023 目黒区八雲 3-4-9
- 代 表 岩崎 直彦（☆）
- 22 日本工業大学（工業技術博物館）
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570
- 学 長 竹内 貞雄
館 長 清水 伸二
技 術 五月女浩樹（☆）
- 23 秩父鉄道株式会社
〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551
- 代表取締役社長 牧野 英伸
技術部車両課 木村 壮史（☆）
- 24 東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352
- 代表取締役社長 喜勢 陽一
総務・法務戦略部 大野 啓介（☆）
- 25 公益財団法人 東日本鉄道文化財団
〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570
- 会 長 深澤 祐二
学芸部 五十嵐健一（☆）

- 26 一般財団法人 東武博物館
〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814
- 理事長 三輪 裕章
専務理事・館長 山田 智則
管理課長 伊藤美千夫 (☆)
- 27 公益財団法人 日本ナショナルトラスト
〒102-0083 千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190
- 会 長 安富 正文
事業課 大久保優美 (☆)
- 28 一般社団法人 CARB ※新加入
〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1 丁目 4 5 番 2 号
Tel 03-4440-5268
- 代表 今井 美槻
担当 塚本 健太 (☆)
- 29 清瀬市
〒204-8511 清瀬市中里 5-842
Tel 042-492-5111 Fax 042-492-2415
- 市 長 澁谷 桂司
経営政策部 木原 雄嗣 (☆)
- 30 横浜市電 1156 号保存会
〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707
- 代 表 齊藤 大起 (☆)
- 31 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)
〒231-8445 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405
Tel 045-651-1730
- 会 長 古賀 学
常務理事 米山 淳一 (☆)
- 32 新潟市新津鉄道資料館
〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808
- 館 長 高山 栄一
副館長 加藤 裕之 (☆)

- 34 上松町（赤沢森林鉄道）
〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038
- 町 長 村田 広司
商工観光係 織田 藍（☆）
- 35 信濃追分駅舎・可惜（あたら）会
長野県軽井沢町追分
Tel 090-7704-1918（河合☆）
- 代表 那須 由莉
担当 河合 桃子（☆）
- 36 足久保鐵道株式会社
〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444
- 代表取締役 玉井 宏政（☆）
- 37 大井川鐵道株式会社
〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115
- 代表取締役社長 鳥塚 亮
鐵道部長 鴨田 善英（☆）
- 38 東海旅客鐵道株式会社（リニア・鐵道館）
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2 リニア・鐵道館
- Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101
- 代表取締役社長 丹羽 俊介
運営企画 松井 友誠（☆）
- 39 公益財団法人 明治村（博物館明治村）
〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358
- 館 長 中川 武
主 任 近藤 雅隆（☆）
- 40 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
〒463-0032 名古屋市守山区白山 1-708
Tel 090-4860-4664
- 理事長 村上 真善（☆）

- 41 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク
〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677
- 理事長 鈴木 進悟
レールマウンテン
バイク事務局 四十竹宏国 (☆)
- 42 公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)
〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396
- 事務局長 梅園いつ子
中川岳人 (☆)
- 43 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
〒914-8501 福井県敦賀市中央町 2-1-1
Tel 0770-22-8128 Fax 0770-22-8184
- 事務局 (南越前町) 山本 啓博 (☆)
- 44 NPO 北国鉄道管理局
〒923-0026 小松市下牧町 8 1
Tel 090-7087-5011
- 代表 岩谷 淳平 (☆)
- 45 NPO 法人 貨物鉄道博物館
〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142
- 館 長 伊藤 則人
常務理事 南野 哲志 (☆)
- 46 西日本旅客鉄道株式会社
〒600-8835 京都市下京区観喜寺町
Tel 075-313-3374
- 代表取締役社長 倉坂 昇治
鉄道文化推進室 川口 穂高 (☆)
- 47 公益財団法人 交通文化振興財団
〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114
- 理事長 長谷川一明
専務理事 松岡 俊宏
交通調査センター長 川端 英登 (☆)

- 48 旧加悦 SL 広場
〒629-2251 宮津市字須津 413
Tel 0772-46-1151 Fax 0772-46-1166
柴田万喜也 (☆)
- 49 NPO 法人 加悦鐵道保存会
〒629-2403 京都府与謝野町加悦 433 旧加悦鐵道加悦駅舎内
Tel&Fax 0772-43-0232
理事長 上野山博己 (☆)
- 50 若桜駅を元気にする会
〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 357-2
若桜町役場企画政策課
Tel 0858-71-0800 Fax 0858-71-0833
会 長 前住 孝行
事務局 北内 泰久 (☆)
- 51 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取
〒680-0022 鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103
理事長 渡辺 一正
事務局 太田 縁 (☆)
- 52 山口線 SL 運行対策協議会
〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロジェクト推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179
会 長 三坂 啓司
観光プロモーション 推進室 武安 つとむ (☆)
- 53 西条市 (鉄道歴史パーク in SAIJO)
〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164
Tel 0897-56-5151 Fax 0897-52-1200
市 長 玉井 敏久
観光振興課 能智 泰良 (☆)
- 54 馬路村 (魚梁瀬森林鐵道)
〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鐵道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208
村 長 山崎 出
魚梁瀬支所 安養寺史一 (☆)

55 宇高連絡船愛好會

〒706-0011 岡山県玉野市宇野 5-21-13

Tel 0863-32-4081

代 表

三村 卓也 (☆)

56 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21

Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長
広報部

古宮 洋二
小玉 宗盛 (☆)

57 北九州線車輛保存会

〒818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1

Tel 070-4171-7738

代 表

手嶋 康人 (☆)

賛助会員

- 01 日本鉄道写真作家協会
〒188-0011 西東京市田無町 2-17-8-304
有限会社マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内
会 長 長根 広和 (☆)
- 02 有限会社 レイルマンフォトオフィス
〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046
会 長 山崎 友也 (☆)
- 03 有限会社鉄道フォーラム
〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57
Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310
代表取締役 伊藤 博康 (☆)
- 04 株式会社井門コーポレーション
〒140-0011 東京都品川区東大井 5-15-3
Tel 03-3450-1112 Fax 03-3450-2516
代表取締役社長 井門 義博 (☆)
- 05 株式会社東海汽缶
〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎 970
Tel 054-346-6688 Fax 054-346-6430
取締役業務統括部長 石川 寛之 (☆)
- 06 株式会社ヤマネ
〒561-0831 大阪府豊中市庄内西町 5-1-76
Tel 06-6332-0157 Fax 06-6332-7086
代表取締役社長 林 圭祐
技術部課長 高見 浩 (☆)

友の会員

赤羽 誠	阿部 豊	岩野 弘一	加藤 圭哉	河合 桃子
佐藤 卓司	倉繁 聡	柴山 純一	須藤 哲也	関田 克孝
関本 康人	瀬端 浩之	橘 秀幸	田中 光一	田中 浩史
塚本 健太	長野 光芳	名取 紀之	西尾 恵介	野田 知毅
畠山 明久	水野 彌彦	杉崎 行恭	神崎 史恵	安倍 敏陽
岩佐 克次	田口由加子			

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email r_rail@rikubetsu.ltd

☆ 気動車の運転体験が出来る観光鉄道 ☆

【営業期間】(令和7年度)

4月26日(土)～10月31日(金)

【気動車運転体験】

CR70・75型車両を運転士の指導を受けながら運転していただくコースです。

60日前からホームページ又は電話にて予約受
(Sコースは空きがあれば当日運転可能です！)

(Sコース) 15分程度の運転体験

料 金：3,000円

対 象 者：小学生以上

(Lコース) 80分程度で講習・出区点検・ポイント切替・運転体験等

料 金：25,000円

対 象 者：18歳以上

(銀河コース) 80分程度で構外運転 1.6km

料 金：35,000円

対 象 者：18歳以上

条 件：Lコースの体験者、18歳以上

(新銀河コース) 80分程度で構外運転 2.8km

料 金：40,000円

条 件：銀河コースの体験者、18歳以上

(分線コース) 80分程度で構外運転 2.8km

料 金：65,000円

条 件：新銀河コースの体験者、18歳以上



【気動車乗車体験】

CR75(銀河鉄道999列車)を使用して運行しております。

料金：(構内) 中学生以上300円、

小学生 200円

小学生未満無料

(構外) 中学生以上500円

小学生 300円

小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式トロッコで1周400m

料金：中学生以上300円・小学生200円

小学生未満無料

【りくべつ鉄道資料館の開館】

国鉄池北線-JR 北海道-北海道ちほく高原鉄道ふるさと銀河線(3セク)-廃線後復活した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」現在までの鉄道資料、保線具、エンジン等を展示。開館は、構外特別運行の日。

<令和7年度事業経過>

2008年4月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は今年開業17年を迎えました。7月19日～20日に開催した「りくべつ鉄道まつり」では、前夜祭に花火列車の運行(車内ではプラネタリウム上映)と本祭に陸別駅から百恋駅までの1.6kmをCR3両を連結して運行しました。2010年「日本鉄道保存協会総会」が陸別町で開催され、2012年1.6km構外への運転体験「銀河コース」を開設。翌年トロッコ周回路400mを敷設し、同年9月「銀河鉄道999」の原作者「松本零士氏」がメーテル号を自ら運転した乗車体験、その夜に銀河の森天文台で講演会(サイン会)を開催した鉄道と宇宙のコラボイベントを開催しました。2020年構外2.8kmの「新銀河コース」、翌年陸別駅～分線駅間1駅まるごと運転体験出来る「分線コース」5.7kmを開設。今年度は、CR75-1の全塗装とCR75-2のエンジン及び駆動系統の全面改修を実施してます。



<整備中の CR75-3 黄色メーテル号>

<令和7年度イベント>

4月26日(土) 令和7年度 営業開始

5月 4日(日) ゴールデンウィーク 構外特別運行

7月20日(日) りくべつ鉄道まつり 構外特別運行

8月10日(日) 夏休み 構外特別運行

9月14日(日) 網走線開業記念 構外特別運行

10月12日(日) 鉄道の日記念 構外特別運行

10月31日(金) 令和7年度 営業最終日

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 Tel : 01267-3-1123 Fax : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com URL : https://mikasa-railway.com/

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和62年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・SL部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行（乗車1回300円）

運行日………4月16日から

10月15日までの土・日・祝日

※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、

休館日を除き毎日運行。

土曜………12:00始発～16:00発最終

日曜・祝日…10:00始発～16:00発最終

※30分毎の発車です。

ただし、12:30発の便はありません。



■SL機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も850人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場し、昔なつかしいどん菓子の実演、無料配布を行っています。また、大道芸人によるステージショーや縁日コーナー等で多くの子どもたちに楽しんでいただいています。

《今年のイベント日程》

- ・5月3日～5日
春の三笠鉄道村まつり
- ・7月5日、6日
蒸気機関車S-304号復活祭
- ・8月9日～11日
夏の三笠鉄道村まつり
- ・10月4日、5日
秋の三笠鉄道村まつり



■教育旅行の受け入れ

毎年、三笠ジオパークの活動と連動し、教育旅行の受け入れを行っており、日本の近代化や北海道開拓を支え、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため、北海道で最初に敷設された幌内鉄道の歴史を多くの学生の皆さんに学んでいただきました。

受け入れ人数も着実に伸びてきており、更なる教育プログラムの推進に力を入れていきたいと考えております。

■その他

右記のQRコードより三笠鉄道村に関する様々な情報をご覧ください。



団体名	<div>〒068-0534 夕張市清水沢宮前町3-9 宮コ3-9 清水沢コミュニティゲート内 URL : http://www.ooyubari-rps.net 担当者：和田 宏士</div>
<p>当会は、夕張市南部列車公園における三菱大夕張鉄道の車両の保全活動を主な活動としております。5月から10月にかけて月1回（第3日曜日）の活動日を設け、清掃作業、塗装や表記の補修作業を行っております。</p> <p>令和7年度の総会は令和7年7月13日に夕張市内において開催し、令和6年度の事業実績及び決算、令和7年度の事業計画及び予算の審議を行いました。</p> <p>なお、令和7年2月に積雪を原因として保存車両のうち1両が横転したため、車両周辺に立入禁止区域が設定されたことから、例年開催している汽車フェスタについて、来場者の安全の確保等、イベント運営が困難と判断し、開催を見送っております。</p> <p>今後、設置者である夕張市と必要な協議を重ね、来場者や会員の安全に配慮しつつ、より効果的な車両の保全活動を検討するとともに、保全活動を通して地域の活性化に寄与していけるよう取り組んでいきたいと考えております。</p>	

団体名	江別煉鉄の会	〒067-0012 北海道江別市2条2丁目 旧北陸銀行内 Tel：090-9967-1971 Fax：なし URL：なし Email：1bunno1kai@gmail.com 担当者：会長 石田 武史
-----	--------	---

◆歩み

私たち江別煉鉄の会は、えべつ1／1会を前身として、令和5年8月に発足しました。

えべつ1／1会は、「1／1の実車―山田コレクション―を走らせる！」を合言葉に、その保存と活用に取り組んできましたが、鉄道事業と深い関りがあり、江別のアイデンティティでもある煉瓦産業を見つめ直し、歴史と産業と文化の三位一体となったまちづくりに貢献しようと、煉瓦の「煉」と鉄道の「鉄」を組み合わせて、江別煉鉄の会としてリスタートしたところです。

煉瓦の材料である粘土のように粘り強く、煉瓦のように固い結束力、鉄路のようにどこまでも続く真っ直ぐな想いで、これからの江別の未来を描いていこうと活動に励みつつあります。

◆動き

一昨年の発足時にまず手掛けたのは、山田コレクションを北海道の宝として位置付けていくことでした。このため、北海道のダイナミックな近代化ストーリーを展開している、「日本遺産 北の産業革命―炭鉄港」に参画し、その構成文化財とするため、行政とともに炭鉄港推進協議会加入に奔走しました。江別における煉瓦と鉄道と石炭との密接な関りを洗い出し、その中心的存在である炭鉱鉄道遺産群として、山田コレクションを位置づけました。

そして、令和6年6月に山田コレクションが日本遺産炭鉄港の構成文化財に認定されたことを記念して、日本鉄道保存協会のご指導をいただき、これまで2回の山田コレクション展を開催したほか、炭鉄港関連の産業遺産ツアーガイドを務めるなど、少しずつではありますが、山田コレクションや煉瓦にスポットライトを当てつつあります。



◆想い

私たちの動きは、鈍行列車並みかもしれませんが、街並みをゆっくり眺め、じっくりと味わいながら鉄道と煉瓦を軸とした江別の歴史へ想いを馳せて、後世へ語り継ぎ、誰もが誇る江別を創りあげていきたいと思っています。そのためには、山田コレクションをはじめとする歴史的文化的資源の保存と活用が重要な使命であると考えておりますので、関係各位のご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

団体名	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会	〒 039-2512 青森県上北郡七戸町筑田 5 4-2 Tel : 080-3201-4158 Fax : URL : http://www.ogaemon.com Email : 担当者：星野
-----	--------------------------------	---



青森県七戸町と野辺地町の間 20.9km を結んでいた南部縦貫鉄道の車輛と旧七戸駅構内を保存する活動を行っております。

鉄道営業は平成 9 年に休止、復活することなく平成 14 年に廃止となりました。

保存車輛はレールバスキハ 101・102 の 2 両、キハ 104 ディーゼルカー 1 両（元国鉄キハ 10）、機関車 3 両（D451、DC251、DB11）です。機関車 D451 以外の車輛は動態保存となっています。2023 年秋には貨車ト 404 が保存車輛に加わりました。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車できるイベントを開催し、多くのみなさまに楽しんでいただいております。

秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップを行い撮影会を開催しております。

毎週末の土日にはしちのへ観光協会のご協力のもと、七戸駅構内を公開しレールバスを見学実施しております。旧七戸駅構内では公開日にレールバスグッズを発売しており売上は保存活動に活用させていただきます。

駅構内の枕木の老朽化に伴い安全向上のため、ポイント部の更新と枕木の PC 化を順次進め、2025 年にはほぼすべての枕木の PC 化が完了しました。

1 番線も PC 枕木化して走行可能な状態に

夕暮れ時の機関庫とレールバス



様々なグッズを販売中！ 利益は車輛や駅構内の整備に利用させていただきます。



団体名 七百レールファンクラブ 施設名 七百鉄道記念館
<https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815>

七百検修庫: 〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2

会長: 斎藤正

事務取扱方自宅: 〒270-1154
千葉県我孫子市白山1-26-26

氏名: 野田 悟

連絡先: 090-6568-2629 (開館時以外は通じません)

メール: shichihyakurfc@yahoo.co.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足

平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入

平成27年5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施

その後、令和元年度までは春・秋2回の一般公開を行って参りましたが、令和2年度～3年度は新型コロナウイルスの影響で一般公開は見送りとさせて頂きました。

令和4年9月4日: 3年振りに一般公開を再開

令和5年10月29日、令和6年10月27日と一般公開を開催

本年度は諸般の事情で一般公開は見送りとさせて頂きました。また、日本鉄道保存協会の総会・現地見学会が青森県内で開催されるにもかかわらず、ご協力することが出来ませんでしたことを深くお詫び申し上げます。



昨年10/27 一般公開



5/17 会員による草刈り活動



保存車両 左:モハ3401、右:モハ3603



保存車両 左:ED402、右:ED301

会員数も少ない状態ではありますが、今後も十和田観光電鉄線に関する歴史資料の保存と継承に引き続き活動して参りたいと考えております。

※ 個人連絡先(野田)

自宅PC: IZD01662@nifty.com

個人携帯: 090-2520-2629

個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9

Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002



▲保存会新ロゴマーク

いよいよキハ修復へ！

～私たちの悲願がついにかなう時が来た
2026年のアカシアまつりでお披露目予定～

現在小坂鉄道レールパークでは、かつて小坂鉄道の旅客営業を担ったキハ2100形気動車の修復工事が、小坂町によって進められています。その財源は、一昨年のクラウドファンディング第二ステージによって寄付いただいた、皆様からのご支援が基になっています。

修復されているのは、小坂鉄道小坂線が改軌された1962年製造の1号機であり、ワンマン化改造されていないキハ2101です。長く屋外に留置されていたため痛みが酷い状態でしたが、日本鉄道保存協会とも縁の深い専門業者さん等の手によって少しずつきれいになっています。

しかしながら、予算を使えるのは外板補修・塗装復原とメッキ修繕、そして窓の補修のみ。それ以外の足回り整備、そして各ドアや電気系統などの修復は、小坂鉄道レールパーク技術職員と私たち小坂鉄道保存会の担当です。観光シーズン終了後には、再び冬期活動としてコツコツと修復作業を進めてまいります。お披露目は来年6月開催のアカシアまつりの予定です。完成をお楽しみに！！



▲現役時代のキハ2100形気動車（撮影：千葉裕之）



▲長く外に留置されていたためこの有様に



専門業者さんの手によってここまで仕上がっています▶
(2025年8月末日現在)



▲足回りの整備は保存会が担当しています



▲各ドアの修復も技術職員と保存会員の仕事です

くりはら田園鉄道公園

くりでんミュージアム 旧若柳駅 芝生広場

KURIDEN MUSEUM & RAIL PARK

〒989-5501 宮城県栗原市若柳川北塚ノ根 17-1

TEL : 0228-24-7961 FAX : 0228-24-7962

入館料＝一般 500 円／小中学生 300 円／未就学児無料 休館日＝火曜日

KD 乗車会＝1 名 300 円（未就学児無料） レールバイク＝1 台 500 円

指定管理者：NPO 法人 Azuma-re 管理責任者（連絡先）：高橋尚史



くりはら田園鉄道公園概要・・・

2007年4月1日に廃線となったくりはら田園鉄道。その資料や車庫、若柳駅・車両などを含む一体を保存・活用する施設として、栗原市営で2017年に開館。車庫・資料館・静態保存車両展示を行うミュージアムゾーン、若柳駅および片道 900m の保存線路を活用し乗車会や運転体験を行うアトラクションゾーン、動態保存車両が見える線路脇に作られた芝生広場の3拠点からなる複合施設。

NEWS TOPICS

栗原市誕生20周年および M15 形デビュー 70 周年 KD95 形デビュー 30 周年のアニバーサリー

- ・栗原市政 20 周年号、市長による出発式
- ・乗車会開催毎の特別ヘッドマーク企画
- ・レールバイク年内無料による集客増
- ・記念切符、グッズの販売
- ・特別デザイン硬券を通年使用

保存車両の状況

メイン車両 KD95 形動態保存車両の 部品調達にかかる新たなラインを構築

- ・経年劣化による部品交換を現役時代のストックや生体保存車両に頼ってきたが、今年度仕入れ先業車を開拓し、神秘のストック品や OH を依頼することが可能になった。

動態保存車両 KD11 のフロントガラスにヒビ 現在近隣事業者と修繕に向けて調整中

- ・経年劣化によるサビの膨張によってフロントガラスに 5cm 程度のヒビが発生。運転席の窓枠全体作り直しを計画中。令和 7 年度中は休車扱いとする。

M153 の活用に向けた修繕

毎年 12 月に実施している創業祭で、 鉄道公園開業以来の M153 乗車会開催を目指し、 ドア窓ゴム修繕を実施・完了しました。

課題

- ・M153 のドア窓の H ゴムが劣化し、窓が外れる危険性があった。また、北側 2 箇所のドアがサビにより開閉不能になっていた。

解決に向けた作業

- ・修繕方法の類似事例調査
- ・M15 形に関する図面の整理
- ・窓サイズ計測（窓の取り外し）
- ・H ゴム・ドアクッションゴムの新品購入のルート模索

最終結果

- ・H ゴム・ドアクッションゴムの新品購入
- ・地元業者の協力により H ゴムなど交換を実施
- ・有識者による情報提供により固着したドアを取外実施
- ・OB の協力によりドアの取外しおよびドアレールなど磨き上げ

全作業を報告書としてまとめ保管している。

この作業に多大なるご尽力くださった方々へのこの場を借りてお礼を申し上げたい。

令和 7 年度創業祭では予定通り M153 乗車会を実施する（自走ではなく、他車両を使つての牽引運転）

令和 6 年度の入館者等結果報告

くりでんミュージアム来場者数・・・13,544 名

くりでん乗車会などアトラクション来場者数・・・3,941 名

くりでん運転体験は完売となっている

R7 から新たなスタッフが増え、事業の強化・拡大を目指す

・学芸員スタッフ 三宅元氣

・地域おこし協力隊 秋葉隆史（駅事業スタッフ）

団体名	みちのく鉄道応援団 (東北鉄道資料保存協議会)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 JMF ビル仙台 01 八階 Tel : 022-397-7240 Fax : 022-224-6460 Email : t-kusaka@livit.jregroup.ne.jp 担当者 : JR 東日本東北総合サービス株式会社 総務部 日下敏彦 橋場文耶
-----	----------------------------	--

令和 6 年度活動報告

令和 7 年 8 月 30 日現在
みちのく鉄道応援団
代表幹事 佐藤 茂

当会の活動に就いて概ね令和 6 年 8 月からこの一年を顧みて以下申し上げる。

幹事会は月一回の頻度で行っているが、各回インターネットを用いて電子紙上開催としている。この方式はコロナ禍から続けているものだが、一方で鉄道談義と称する懇親会を部分的に復活させ、諸行事も着手できる所から再開している。

前報の通り、当会創立者の御一人である小林和夫会員が昨年令和 6 年 4 月亡くなったことから、11 月に同氏を偲ぶ会を開催した。また、当会の創設以来の主要会員の御一人である亀谷英輝（かめや・ひでてる）会員も小林会員の後を追うように令和 6 年 6 月にお亡くなりになった。同氏は、小林会員と同世代で、仙台鉄道等を始めとする地方鉄道に造詣が深く、鉄道誌への投稿も多く、また映像等にも長けていらしかった。改めて御冥福をお祈り申し上げる。当会は、このお二人の遺された資料等の継承を図るべく尽力中である。

昨年度は財政が厳しい中で費用を抑えながら会報「みちのく」10 号を発行した。今年度も会報 11 号を準備中である。

模型関連では、令和 6 年 10 月期に当会の関連団体である戸隠高原鉄道に拠り大規模な N ゲージ鉄道模型運行会が宮城県山元町防災拠点・山下地域交流センターで行われた。このセンターは、東日本大震災の際に津波被害に遭って移設整備された常磐線新山下駅に隣接した新施設である。

また、C601 保存会関連では、当令和 6 年 3 月 23 日には修理箇所調査に参加し、更に当令和 6 年 10 月と当年令和 7 年 4 月に掃除会が行われ、当会からも参加した。機関車の現地説明も仙台市の要請に対応し仙台七夕祭など中心部で開かれる行事と連動して行った。外国人観光客の見学にも対応した。

そして、会員向けに令和 2 年 7 月から毎週土曜日に鉄道関連動画の紹介を続けている。これはコロナ禍の下で移動が制限されていた際の会員間の意思疎通の一環として始めたもので、過去の記録性の高い動画を観ることで時間旅行も行うと言う企てである。コロナ禍の後も継続している。解説を付し、概ね地元・国内・世界と順に巡っている。既に約 250 本は紹介した。これに添えて、令和 7 年 5 月以降は仙台市電 100 年に因み一週一話で「仙台市電夜話」を記し、仙台市電の歴史の端端を数行で紹介している。

取材対応関係では、仙石線旧仙台地下駅に関し毎日新聞から、仙山線仙山トンネル内の交換設備に就いて当地雑誌「りらく」から、増田駅から閑上まで走っていた増東軌道に就いて NHK から取材を受けた。記事化されたりされなかったり、各社の対応も様々であったが、正確な情報の提供に努め定評を高めて行きたい。



写真 LGB 不具合解決—令和 7 年 6 月

意外にも、当令和 7 年 6 月に仙台楽生園から御要請を頂いた。同館併設こども向けおもちゃ図書館の常設 LGB (レーマン大型鉄道模型) の大レイアウトが有り、これが走行不具合を起こしているとのことで、現地に赴き原因の解明を果たした。

令和 7 年(2025)は、宮城電鉄こと仙石線開業 100 周年、仙台市電 100 年の年である。年数が経つと俗説が流れがちであるが、正しい情報の発信と発掘に努めて行きたい。

コロナ禍に耐えている間に活動等に制約を受けたが、その間に工夫したことが今に生きている。活動を更に加速させたい。
(以上)

団体名	真岡線 S L 運行協議会 (芳賀地区広域行政事務組合内)	〒 321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412 番地 Tel : 0285-82-9151 Fax : 0285-82-9152 URL : https://www.moka-railway.co.jp/ Email : furusatoshinkou@hagakouiki.jp 担当者：浅川 健
-----	----------------------------------	--



▲真岡駅を出発する C1266

「S L もおか」運行概要

- 【運 行 日】 毎週土曜日・日曜日（年末年始を除く）
- 【運行区間】 真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
- 【運行時間】 下り 下館駅10:35発～茂木駅12:06着
上り 茂木駅14:28発～下館駅15:58着
- 【運行車両】 S L C12形66号
P C 50系 オハ2両、オハフ1両
D L DE10 1535 1両

◆ S L の重要部検査及び見学会を実施

S L もおか号として運行しているC12形66号機は、J R 東日本大宮総合車両センターで重要部検査を実施しました。9月から10月末までの期間が、検査のため運休となりましたので、この機会を利用し、ボランティア団体の「もおかS L 倶楽部」会員向けに見学会を計画、開催しました。

今回の見学会は、10月1日に開催し、S L の車体と台車を接続させる「車体のせ」をメインに見学することができました。参加者は重量のある車体部分が吊り上げられると、思い思いに写真や動画を撮影していました。



▲ J R 大宮総合車両センター職員から注意事項等の説明を聞く参加者



▲施設内での記念撮影

◆ 夏休みイベント等の実施

例年開催している、小学生を対象にした「S L ガイド体験」、S L の仕組みを学んだり、運転台見学ができる「S L 教室」等を実施しました。特に「ガイド体験」は人気度が高く、申込開始後すぐに定員となりました。

他、S L サンタトレイン、S L 新年号を実施し、乗客の皆様楽しんでいただきました。



▲ S L ガイド体験



▲ S L 教室



▲ S L サンタトレイン

団体名

一般社団法人

あしおトロッコ館

〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825

URL : <https://ashio-toro.jp>

E-mail : ashiotoro@gmail.com

担当者：総務担当 岡本憲之



あしおトロッコ館 本館

野外展示場では、運行するトロッコ列車に乗車できます。復元されたガソリンカーは毎月第1土・日に走っています。

本館は2階建て

各種のトロッコの鉄道模型

全国各地から保存のため集まって来たトロッコたち



今年からあしおトロッコ館は完全独立しました



公開時はキハ35の車内も見学できます



デモ運転の模様

分館 足尾駅保存車両

は、いつでも外観をご覧になることができます。春と秋の定期イベントでは車内公開や展示走行が見れます。

キハ35-70



わたしたちは、足尾銅山の鉱山鉄道をはじめとして、全国各地で活躍していた鉄道車両および”トロッコ”などの鉄道系施設を、保存・展示する鉄道保存ボランティア団体です。これらを後世に語りつぐための近代化遺産および産業遺産として保存するとともに、活用をすることで鉄道の保存活動の価値をたかめ、あわせて足尾町地域を含む栃木県日光市内の発展と、わたらせ渓谷鐵道の活性化に寄与することを目的としています。活動場所はふたつあり、わたらせ渓谷鐵道の通洞駅近くにある【あしおトロッコ館 本館】と、同じくわたらせ渓谷鐵道足尾駅旧貨物ホーム周辺にある【分館 足尾駅保存車両】です。なお、我々の活動は日光市・古河機械金属・わたらせ渓谷鐵道・わたらせ渓谷鐵道市民協議会、それに多くの市民の皆様方の協力により成り立っております。

●あしおトロッコ館 本館●

■場所：わたらせ渓谷鐵道 通洞駅 ちかく
栃木県日光市足尾町松原 2825

■開館日等：毎月土・日・祝日のみ開館

■入館料：大人 500 円(大学生以上)
子供 200 円(高校生以下)

※未就学児は無料。また当日に限り入退館は自由です

■アクセス：わたらせ渓谷鐵道「通洞駅」下車 徒歩 5 分
または JR 日光線及び東武日光駅から
日光市営バス足尾 JR 日光駅線「銅山観光入口」下車
徒歩 2 分

●分館 足尾駅保存車両●

■場所：わたらせ渓谷鐵道 足尾駅 貨物ホーム周辺

■開館日等：年中無休にて外からの見学は自由ですが、イベントは春・秋の年 2 回

■入場料：無料

■アクセス：わたらせ渓谷鐵道 足尾駅 下車すぐ。
または JR 日光駅及び東武日光駅から
日光市営バス足尾 JR 日光駅線「足尾駅前」下車すぐ

団体名	鹿島鉄道保存会 <鹿島鉄道記念館>	〒332-0003 埼玉県川口市東領家 4-3-14 (株)バレア内 TEL 048-223-5088 URL https://www.facebook.com/kashitetsu 代表者: 加藤三千尋
-----	--	--



当会の活動ヒストリーを紹介



復元した銚田駅出札口



関鉄標準色を再現

鹿島鉄道保存会は、2007年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～銚田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志で構成され、「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】

キハ714(1953年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)

KR-501(1989年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)

キハ431(1957年東急車輛 元加越能鉄道キハ125) ※2023年8月再塗装実施

【保存建物・物品】

玉里駅上りホーム待合室、銚田駅出札口(復元)、発車ベル(玉造町駅)、鬼瓦(鹿島参宮社紋)

駅名標(12駅)、駅名板、時刻表、運賃表、改札ラッチ、案内看板、ARC制御盤(銚田駅・巴川駅)

信号機、キロポスト、各種標識、古レール、橋梁の製造銘板、電柱の識別板

ナンバープレート、転換クロスシート、各種ヘッドマーク、サボ、運転士携行鞆、車掌鞆、運行図表

乗車券類、各種関連グッズ等、改札錠、許認可関連資料、車両竣工図表、書籍・DVD・写真等

かしてつ応援団・存続運動関係資料、みんなでカシノリグッズ

関鉄グリーンバス(鹿島鉄道代替バス・かしてつBRT)行先方向幕、関連資料

【活動報告】

2024年6月1日～9日、小美玉市小川文化センターアピオスにて「かしてつ石岡～常陸小川間開通100周年記念事業」を銚田駅保存会・小川南病院との共催で開催しました。鹿島鉄道・かしてつバスの写真や資料を展示したほか、開業100周年当日の6月8日は『かしてつファンの日』として、鉄道模型運転会・上映会を実施し、開催最終日の6月9日には、鹿島鉄道の83年、かしてつバスの17年を振り返るとともに、これからの地域公共交通をテーマとした『記念シンポジウム』を開催しました。

また、鹿島鉄道記念館の展示リニューアルが完了し、展示品の追加、銚田駅出札口を復元したほか、保存会活動ヒストリーやかしてつバスを紹介するコーナーを新設しました。

【今後の活動予定】

2025年10月18～19日 関東鉄道瀧波ノ江駅にて「鹿島鉄道展」を開催予定

2025年11月23日 関鉄観光バスツアーで鹿島鉄道記念館特別公開

詳細が決定次第、当会のFacebookページでお知らせいたします。

団体名

鉾田駅保存会

URL : <https://hokotaeki.jp/>

事務局 : 〒310-0001 茨城県水戸市上河内町 162 川津方

Email : hokota-station@rail.nifty.jp

展示場所: 〒311-1528 茨城県鉾田市当間 220 ほっとパーク鉾田内

キハ601とKR-505の保存活動をしています



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線 (2011-01-16)

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

キハ601は昭和11(1936)年川崎車輛製のキハ42032(後のキハ07)で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。来年製造90年を迎えます。

KR-505は平成4(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で製造後33年となりました。

鹿島鉄道の源流である鹿島参宮鉄道の開業は大正13(1924)年(全線開業は昭和4(1929)年)であり、昨年2024年が開業100周年であったため、開業日に合わせ6月に沿線の小美玉市において、当会と同様に鹿島鉄道の車両の保存活動をしている鹿島鉄道保存会・小川南病院殿との共催、そして小美玉市・石岡市・小美玉市教育委員会・関東鉄道殿の後援、関鉄レールファンCLUB殿の協力で鹿島鉄道石岡～常陸小川間開業100周年事業を実施しました。(写真展・資料展・記念シンポジウム)

当会は、2両が展示されている茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開と、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている2両の気動車は廃線後の2008年1月に当会が鹿島鉄道様から購入したものでした。当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において保存することになり、当会は気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

東日本大震災では余震も含め2度の震度6強の揺れに襲われ、液状化により道床破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輛を一時的に移動して復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し2012年3月より公開イベントを再開しました。

以後3～11月の原則第4日曜日(7月・8月は第4土曜日夕方)の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的安定した12～3月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2024年度は定期公開・広報活動を実施するとともに、前記のように、小美玉市において『鹿島鉄道石岡～常陸小川間開業100周年事業』を鹿島鉄道保存会・小川南病院殿との共催で実施しました。

また、冬季はキハ601の全塗装作業等を実施しました。

2025年度も、3月末から車両公開を実施しています。今後の定期公開は、10/26・11/23の予定です。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料等の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) 車内でのプラレール遊び
- (4) 車内での鉄道模型展示運転
- (5) 5インチ鉄道体験(16m×12m オーバル他)

また、鉾田市や商工会主催の鉾田うまっぺフェスタ・ほこたいっぱいマルシェ・くぬぎの森まつりなどの地域行事に参加・協力し広報活動を行っています。近隣施設での広報活動も実施しています。

廃線から18年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ露天での保存のため車両の劣化も進んでいます。

錆びを落とし塗装をするだけでは凌げない箇所も多々あり、技術力(防錆・溶接等)の向上と補修用機材(溶接機等)の導入、人員の強化が変わらぬ課題です。



開通100周年記念シンポジウム(2024-06-09)

団体名	陸・海・空・宇宙のテーマパーク 「ユメノバ」	〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ Tel:0296-48-7417 Fax:0296-48-7419 URL: https://www.shimodate.jp/ Email: honten@hirosawa-shoji.co.jp 担当者: 野口・石川
-----	----------------------------------	--

寝台特別急行列車への宿泊体験 順調に営業中！



- ・オロハネ 24-551 (A・B 寝台個室)
- ・スシ 24-505 (グランシャリオ、食堂車)
- ・オハ 25-503 (ロビーカー)
- ・オハネフ 25-12 (開放B寝台)

からなる「寝台特別急行列車」(定員 48 名)を、団体専用として、昨年 3 月より使用を開始しています。1 泊 1 編成 20 万円という料金設定にもかかわらず、土日を中心に順調な営業を続けています。

2015(平成 27)年に JR 東日本から譲渡を受けてから 10 年が経過し、経年劣化の兆しが見え始めていますが、社員一同で力を合わせ、往時を偲ばせてくれる姿を、少しでも永く止めるべく、今後も取り組んでまいります。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

「マリンライナーはまなす」のシミュレータが大活躍！



「マリンライナーはまなす」は 1992(平成 4)年に観光目的車両として製造された車両で、座席は JR の特急列車と同じフリーストップリクライニングシート、運転席の後ろには 6 人掛けの展望席を有した車両でした。

しかしながら、1 車両に 1 扉であること、座席がクロスシートであることからラッシュ時には運用に組み込めないこともあり、1998(平成 10)年 12 月に「マリンライナーはまなす」としての運用は廃止され、以降は臨時列車として運用されていましたが、2010(平成 22)年 3 月の運行を最後に運用から離脱し、神栖駅に留置されていました。

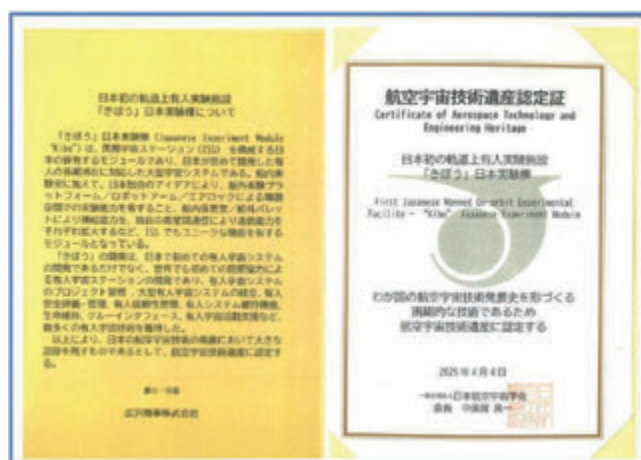
この車両を復活させるべく取り組み、現在は、当時の運転台を活用したシミュレータに改造し、往時を偲ぶことができるようになっています。

ユメノバに新たな宇宙施設が完成！



「ユメノバ」では、オープン当初から宇宙に関しての展示の充実に取り組んできました。こうした中、昨年 JAXA との間で、宇宙に関する物品の譲渡に関して交渉を続けた結果、国際宇宙ステーションの一部を構成している「きぼう」のエンジニアリングモデル(実機を製造する前に製造された機体)など、15 物品について譲渡が決定し、筑波宇宙センターからの搬入作業を本年 8 月に実施しました。

今後、展示に向けた整備を行い、多くの方々に「宇宙」を実感できる施設とすべく取り組んでまいります。なお、今回譲渡された物品のうち 4 物品については、本年 4 月に「航空宇宙技術遺産」に認定され、東京大学安田講堂にて認定書授与式が行われました。



団体名	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : https://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長 小崎 正人
-----	-------------------------------	---

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパE F 6 3形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経路に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道のテーマパークです。今年で開園27年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早29年が経過し、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月のお盆過ぎまで、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も3,000人が受講されています。2024年度は59名の受講者（内、女性1名）があり、のべ3,144回の体験を楽しめました。また、通算500回以上運転された方が11名おり、ついに1,000回達成者が現れました。2025年度も引き続き多くのお客様が運転体験を楽しまれています。

20時まで営業を延長する「ナイトパーク」や屋外展示車両広場で1泊のキャンプイベント、EF63形電気機関車指導員による低圧・高圧回路講座など、一般のお客様からコアな鉄道ファンの方まで楽しめる各種イベントを開催し集客に努めています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



ナイトパーク



キャンプイベント

団体名	<p style="text-align: center;">日本工業大学 工業技術博物館</p>	<p>〒 345-8501 TEL : 0480-34-4111 FAX : 0480-33-7570 URL : http://museum.nit.ac.jp Email : museum@nit.ac.jp 担当者：五月女 浩樹</p>
-----	--	---

現在わが国の工業技術が世界最高レベルなのは先人達が懸命な努力をし続けてきた賜物であり、その経緯と成果に触れつつ技術発展を図る『温故知新』が工業技術の教育・研究開発には不可欠である。

そこで、学園創立80周年記念事業の一つとして1987年度に開設された当博物館では、国内外の先人達の成果である機械等を調査・収集・保存・展示することで、技術史研究の場を提供するとともに工業技術の教育・研究・啓蒙に貢献することを目的として、下記の諸活動を行っている。

- 1) わが国の経済発展に貢献した工作機械を主体に、機械機器類を調査・収集し、整理して保存・展示を行う。
- 2) 常設展示とは別に、年1回、中核である工作機械や身近な工業製品の技術をテーマとした特別展を開催する。
- 3) 国内外の技術の変遷を理解する上で必要な書籍・文献・関連資料（図面等）の収集を行い、整理して保存する。
- 4) 技術の変遷に関する記事、当博物館の活動、収蔵品の紹介などを掲載する『工業技術博物館ニュース』を発行する。

開設以来、収蔵品の数が年々増大するとともに質も向上してきており、現在、常設展示品だけで機械機器類大小合わせて500以上に達している。特に約270台もの工作機械を保存展示し、そのうち約70%が動態保存であること、工場形式の展示も数点あること、機種別・年代順に展示し変遷が理解できることなどが、国内外の他の類似の博物館には無い大きな特長である。

生産機械以外では、国家プロジェクトで開発され世界最高効率を実証した大型ガスタービン、1891年に英国で製造され、長年わが国で活躍した**蒸気機関車2100形-2109号**、1919年に製造され、100年間にわたり箱根登山鉄道で活躍した**登山電車モハ1形103号**、2007年の学園創立100周年記念事業の一つとして調査・復元した**日野式2号飛行機（レプリカ）**なども展示している。蒸気機関車については、動態保存して、キャンパス内に敷設した軌道上で時折有火運転し、鉄道ファンだけでなく、多くの皆様楽しんで頂いている。

2109

BEAUTIFULY PROPORTIONED 0-6-2 TANK LOCOMOTIVE

Beautifully proportioned 0-6-2 tank locomotive



This steam locomotive was manufactured by Nippon and Company in England (later known as Nippon Railway Co., Ltd.) in 1919, and operated in Japan in the year. The 2100 series steam locomotive has the same design as the 2100 series, manufactured in England and Japan, the former made at the Nippon and Company, and the latter manufactured at the Nippon Railway Co., Ltd. The 2100 series is a 0-6-2 tank locomotive, which was designed by the Nippon Railway Co., Ltd. The first unit of the 2100 series steam locomotive is No. 2109, and since it was the 2100 series, it was called "Nippon 2100". It is said that it was an excellent model.

This locomotive is a large locomotive for the time, and because of its superior design and performance, it was used as a main locomotive for many years, and it is still in service as of 2019.

The steam locomotive is a number of steam locomotives that were the Nippon Railway Co., Ltd. and the Nippon Railway Co., Ltd.

103

BEAUTIFUL SOUND THAT EVOKES NOSTALGIA

A roaring drive sound that evokes nostalgia

Overview of Mo-Ha type 1 No. 103

The Mo-Ha type 1 is a small steam locomotive manufactured in 1919 at the Tokyo Works of Nippon Manufacturing Co., Ltd., and is a modified version of the wooden car body (Mo-Ha type 1) manufactured in 1919 at the Nippon Manufacturing Co., Ltd. The Mo-Ha type 1 is a small steam locomotive, which was designed by the Nippon Railway Co., Ltd. The first unit of the Mo-Ha type 1 is No. 103, and since it was the Mo-Ha type 1, it was called "Mo-Ha 103". It is said that it was an excellent model.

This locomotive is a small steam locomotive for the time, and because of its superior design and performance, it was used as a main locomotive for many years, and it is still in service as of 2019.

The steam locomotive is a number of steam locomotives that were the Nippon Railway Co., Ltd. and the Nippon Railway Co., Ltd.



SL2109 号英語版コンテンツ

箱根登山鉄道英語版コンテンツ

箱根登山鉄道車両の再塗装

鉄道関係英語版ホームページ開設

昨年度の報告で計画を示した蒸気機関車と箱根登山鉄道の英語版のホームページを開設した。

URL : <https://museum.nit.ac.jp/en/>

ホームページでは、蒸気機関車 2109 号や箱根登山鉄道について日本語版の内容と同様のボリュームで英語化を実施した。それぞれの車両の紹介文だけでなく、技術的な内容についての英語化したので海外からの閲覧などを期待している。

箱根登山鉄道車両の再塗装

予算を確保し、今年度、ようやく箱根登山鉄道車両の再塗装工事に着手する計画で、12月頃のお披露目を目標に進捗中である。

お披露目の時期については当館のホームページでお知らせする。

また、2019年に当館で保存が始まり6年がたち、学生ボランティアの力により圧着ブレーキ、空気ブレーキ、散水など部分的ではあるが、復元が進み、動態の様子をご覧頂ける準備も行っている。

団体名	秩父鉄道株式会社	〒360 - 0033 Tel : 048-523-3337 Fax : 048-526-0551 URL : http://www.chichibu-railway.co.jp Email : syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：木村 壮史
-----	----------	--



行田市駅ホームで行われた S L 日本遺産のまち行田号特別運行出発式



S L 日本遺産のまち行田号特別運行に向けた試運転(左写真：武州荒木駅、右写真：行田市駅にて)

S L 日本遺産のまち行田号特別運行

1988 年 3 月 15 日に運行開始して以来、熊谷－三峰口間において運行を行ってまいりましたが、運行後初めて行田市－熊谷間を SL 列車が走行いたしました。運行開始前に武州荒木－熊谷間で試運転を実施し、2025 年 8 月 30 日(土)に初めて SL 日本遺産のまち行田号として特別運行として営業運転を行いました。皆様から大変好評を頂きましたので、10 月 13 日(月・祝)と 26 日(日)も特別運行として、行田市－三峰口間の運行をいたします。

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番 Tel：048-651-0088 Fax：048-651-0570 URL： http://www.railway-museum.jp/
<p>【主な活動報告】</p> <p>■企画展の開催</p> <p>- 国家鉄道博物館準備処(台湾)・鉄道博物館(さいたま市) - 交流協力企画展「和風×台味 台湾鉄路の食文化」</p> <p>会期：2025 年 2 月 22 日～6 月 2 日</p> <p>当館では、これまで台湾の鉄道に関する施設等の調査やシンポジウム等に協力してきた。2023 年には台湾の国家鉄道博物館準備処と「交流協力協定書」を締結し、更なる相互理解と友好関係を深め、両者の博物館活動の発展を促進することになった。</p> <p>本展は交流協力の一環として、「台湾の鉄道と食」にフォーカスした企画展を当館で開催したものである。日台の食堂車の歴史や概要、駅弁の歴史のほか 2025 年 7 月 31 日に第一期オープンを迎えた台北の国家鉄道博物館について紹介した。</p> <p>企画展「こころ、はずむ、出会い ～観光列車の世界～」</p> <p>会期：2025 年 7 月 12 日～9 月 29 日</p> <p>近年、日本の鉄道は単なる移動手段にとどまらず、列車に「乗ること」自体を楽しむ新しい旅のスタイルが広まり、全国各地で特色ある“観光列車”が注目を集めている。</p> <p>本展では、全国で活躍する観光列車の多彩な世界を通して、鉄道の旅の魅力を紹介した。</p> <p>■実物車両の展示</p> <p>- 鉄道博物館・東武博物館連携企画 - 「東武鉄道 8000 系車両展示」</p> <p>会期：2025 年 4 月 5 日～5 月 19 日 会場：鉄道博物館 車両展示スペース 内容：</p> <p>当館と東武博物館は、2023 年度から連携企画を展開している。東武博物館の所蔵資料を当館内で特別公開したり、相互の博物館に職員が出向いて特別講演会を開催するなど、様々な活動を通して鉄道文化の醸成を図っている。</p> <p>今回、当館の車両展示スペースにおいて、東武鉄道の通勤車両「8000 系 8500 型 8577 編成」を 2 週間展示した。</p>		
	 	 <p>企画展開幕式の様子</p>  <p>国家鉄道博物館(台湾) 全景</p>
	 <p>排骨弁当の再現模型</p>	
	 <p>東武鉄道 8000 系</p>	

団体名	一般財団法人 東武博物館	〒 131-0032 Tel : 03-3614-8811 Fax : 03-3614-8814 URL : https://www.tobu.co.jp/museum/ Email: kanri@tobuhaku.jp 担当者：管理担当 伊藤美千夫
-----	--------------	---

東武鉄道 8000 系の話題

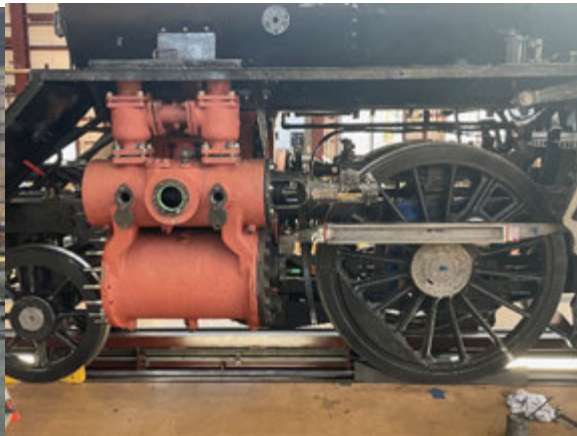
登場から 62 年を迎える 8000 系は、東武博物館所属で動態保存中の 8111 編成（東武アーバンパークラインで通常運用）はもとより、各線区での活躍が続いてきましたが、このほど都内で唯一運用していた亀戸線と大師線から 8000 系が撤退することになり、これを記念して東武博物館も関りを持ちながら、各種展示やイベントが行われました。中でも 8577 編成（2 両固定、リバイバル塗装、晩年は亀戸線・大師線で活躍）が 4 月 5 日から 5 月 19 日まで大宮の鉄道博物館で展示され、大きな話題となりました。



左：東武
アーバン
パークラ
インを行
く 8111 編
成
右：鉄博
に展示さ
れた 8577
編成

C11-207 号機の全般検査

東武鉄道で走り始めて 8 年が経過する C11-207 号機（JR 北海道様からの借り入れ車両）は、このたび全般検査入りし、リフレッシュした車体でお客様を楽しませています。



南栗橋
SL 検修
庫で全
般検査
中の
C11-207

団体名	公益財団法人日本ナショナルトラスト	〒 102-0083 Tel : 03 (6380) 8511 Fax : 03 (3237) 1190 URL : http://www.national-trust.or.jp/ Email : info@national-trust.or.jp
-----	-------------------	--

「トラストトレイン」の活動について

運行日のボランティア活動では、車両の清掃や運行補助のほか、活動を周知するためのパンフレット配布などを行っています。他にボランティア間でミーティングも行い、活動を充実させるためには何をすればよいか、ボランティアや協力者を増やすにはどうすればよいかなど知恵を出し合い、行動に移しています。

また、運行日のうち一回を「親子ボランティア」として実施しています。親子ボランティアは、次世代を担う子供たちに歴史的車両を守っていく楽しさや喜びを伝えるため、歴史的車両と触れ合う機会、保存・活用に関わっているボランティアの方々や大井川鐵道の鉄道マンの方々と交流する機会となっています。

市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。

*2024 年度報告：ボランティア参加者 延べ 74 名／6 日

2025 年 2 月 鉄道写真家・櫻井寛氏による講演会を開催

2 月 15 日に鉄道写真家の櫻井寛さんによる講演会「世界一の鉄道王国スイス」を開催し、32 名の方が参加してくださいました。櫻井さんからは、スイスの鉄道と風景の美しい写真の数々を、丁寧に、そして楽しく紹介していただきました。また大井川鐵道（株）の鳥塚社長からは、どのようなお考えのもとに様々な取り組みをされているか等、興味深いお話を伺いました。



2025 年度「トラストトレイン」運行日等ボランティアについて

2025 年 4 月 19 日（8 名）、10 月 18 日、12 月 6 日、2026 年 1 月 17 日、2 月 21 日

*いずれも土曜日

*2 月 21 日は「親子ボランティア」を開催予定

*（ ）内は参加者数

〔区間〕大井川鐵道 新金谷駅 — 川根温泉笹間渡駅

〔保有車両〕

C12 形 164 号蒸気機関車（休車中）、スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車



C12 形 164 号蒸気機関車（休車中）



ボランティア集合写真（2024 年度）



トラストトレインのウェブサイトは、左の二次元コードからご覧いただけます。

団体名	<p>しあわせは、ここにある</p>  <p>清瀬市 Kiyose City</p>	<p>〒204-8511 東京都清瀬市中里5丁目8-42番地 Tel : 042-492-5111 URL : https://www.city.kiyose.lg.jp/ Email : y_kihara@city.kiyose.lg.jp 担当者：シティプロモーション担当部長 木原雄嗣</p>
-----	--	--

「夢空間」が清瀬市に

本市では、児童館等複合施設を公園内に建設するにあたり、新たな賑わいを創出し、多くの方に本市を訪れていただけることを目指しております。このことについて、幅広い世代の方が楽しむことのできるものとして「夢空間」ダイニングカー(オシ 25901)とラウンジカー(オハフ 25901)の2両を譲り受け、令和7年1月に三井ショッピングパークらぽーと新三郷から清瀬市立中央公園に搬入しました。夜間二日間にわたる移設作業には、多くのギャラリーが訪れ、大きな声援をうけながら無事に設置することができました。

令和7年8月現在、外装修復作業をほぼ完了し、内装の修復に取り掛かっています。令和8年2月には、復活した「夢空間」の雄姿をみなさまへお届けしたいと考えています。

今後は「夢空間」をオリジナルの姿に復活させ、屋根をかけた状態で保存し、後世に引き継いでまいります。あわせて「夢空間」の特徴である「飲食ができる車両」であることを最大限に活かすため、現役時に提供されていたオリジナルメニューを再現するなど、車両内で食事や飲み物を提供したいと考えております。

このたび、内装の修復費用の一部について、全国のみなさまよりご支援とご声援をいただきたく、9月1日から11月30日まで、第2弾クラウドファンディングを実施しております。みなさまからのご支援とご声援をチカラにして「夢空間」を復活させ、末永く保存していきたいとの思いで、このクラウドファンディングを立ち上げました。会員のみなさま、ご協力よろしくお願いいたします。



団体名	「横浜市電 1156 号保存会」	Tel : Email : yokohamashiden1156@gmail.com 担当者 : 齊藤 大起 (さいとう ひろき) https://yokohamashiden1156.jimdofree.com/
-----	------------------	--

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、随時、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。



▲輝きを取り戻した現在の 1156 号



▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者（齊藤）が、荒廃していた 1156 号が解体されるとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポールトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

2020 年 12 月からは、横浜市電の運転・運行管理を楽しめるゲームアプリ「追憶の電車通り」（App Store, Google Play からダウンロード）の広告収益を、維持費に充当する仕組みも始まっています。



■横浜市電とは

1904（明治 37）年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◀窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

団体名	公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)	〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目6-1 泰生ビル405 Tel/Fax 045-651-1730 URL : http://www.yokohama-heritage.or.jp Email : yh-info@yokohama-heritage.or.jp
-----	---------------------------------	--

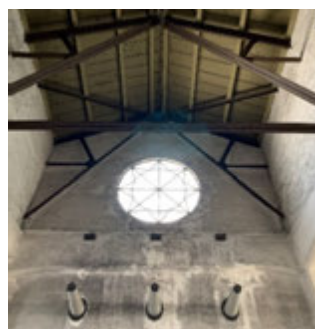
(ヨコハマヘリテイジの活動報告)

ヨコハマヘリテイジでは、令和7年の調査・保護・普及事業を順調に進めております。特に再建予定のモーガン邸の設計、藤沢市との建築確認調整などをおこなっております。また保護資産である野毛都橋商店街ビル（横浜市登録歴史的建造物）は、中長期的な修繕計画のための調査を行います。

さらにネットワーク事業では、この度の日本鉄道保存協会の総会・見学会（七戸町開催）、全国シルクロード・ネットワーク協議会秩父フォーラム（埼玉県）の開催支援を行います。

鉄道遺産に関しては、横浜港鉄道遺産調査を行います。また旧湘南電鉄（現・京浜急行電鉄）瀬戸変電所（昭和4年建造）の将来にわたる保存・活用計画を作成しています。令和7～8年にかけて、京急と力を合わせて現況調査、修復を行い、その後はヘリテイジが所有し、保存活用する方向性を見出しています。全国初の変電所の保存・活用に向けて微力ではありますが、まい進いたしたく存じます。皆様のご支援、ご協力は不可欠です。ぜひ、ご支援ください。

[旧湘南電鉄瀬戸変電所]変電所外観(2点)と建物内部から見たバラ窓



[瑞穂橋梁]



[汽車道]



団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤 裕之
-----	------------	--

◆新潟鉄道資料館概要

昭和 58 年 10 月 14 日、旧新津市が新潟市鉄道資料館を開設しました。
平成 10 年 4 月、旧国鉄の鉄道職員研修所「新潟鉄道学園」を取得・改修し、二代目新潟鉄道資料館として現位置に移転しました。
平成 17 年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」となり、平成 26 年 7 月にリニューアルオープンしました。

200 系新幹線、C57 形 19 号機蒸気機関車、485 特急形電車、DD14 形液体式ディーゼル機関車、E4 系新幹線、115 系近郊形電車、新幹線確認車 GA-100 を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。



E4 系新幹線と 115 系電車

◆施設概要

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車バスで 5 分。磐越自動車道新津 IC から車で 2 分
3. 建物 鉄筋 2 階建、延べ 1、894 m² (屋外展示場除く)
4. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約 800 点
5. 特色 実物車両 7 両展示、電車運転シミュレータ、ミニ SL (D51 形の縮尺 1/5) など

◆令和 7 年度事業

①8 月 2 日～10 月 20 日

上所駅開業記念特別展「くらしと鉄道 ―新潟市の駅と交通―」

新潟市域の鉄道駅と交通の歴史について紹介する展示です。市内の 29 駅の紹介のほか、2025 年 3 月に新設された上所駅の駅名板レプリカ、外壁サンプルなども展示しています。

②4 月～10 月 土日・祝日を中心にミニ SL を運行

③まちなか鉄道資料館

新津商店街に新潟鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示 (SL 動輪・踏切警報機等)。商店街も各店で鉄道関連の品を展示

④鉄道模型走行会 新潟市内の鉄道模型愛好団体の協力を得て開催

⑤その他 実物車両車内公開、鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、他



◆実物車両展示ほか



200 系新幹線・SL C57 形 19 号機



新幹線確認車 GA-100



DD14 形機関車と 485 系電車



新シミュレータで地元路線の運転体験ができる



ミニ SL「いつきてきち号」はお子さんに人気

団体名

長野県 上松町
赤沢森林鉄道

〒399-5601 長野県木曽郡上松町大字上松 159-4
上松町役場 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038
URL : <http://www.town.agematsu.nagano.jp>
Email : syoukan@town.agematsu.nagano.jp
担当部署 : 産業観光課商工観光係

1987 年の復活運行開始から 38 年、赤沢森林鉄道は、赤沢自然休養林の園内を走り続けています。
2024 年度は、木曽で全国森林鉄道サミットが開催され、全国の林鉄ファンが訪れました。



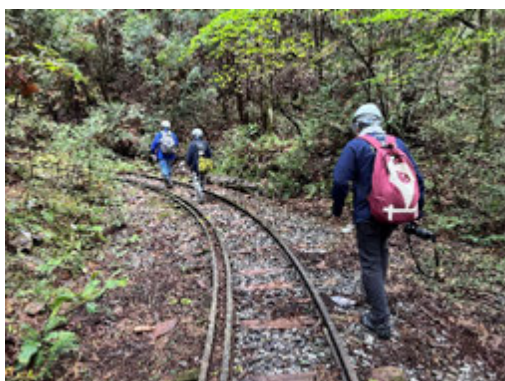
○ふるさと納税の返礼品として
モーターカーの貸し切り乗車体験
が初めて行われました。

○恒例となった理髪車での
散髪体験は大変好評です。



○昨年に引き続き、森林鉄道 No.86 の修繕作業のため、
有志の方にご協力いただきエンジンをおろして点検を
行いました。

○全国森林鉄道サミットに合わせて、赤沢自然休養林では理髪車での散髪体験と、
特別に軌道跡散策を行いました。



木曽郡内には、まだ多くの未整備車両が存在します。今後もより多くの参加者が関わって連携を
はかり、森林鉄道の保存と観光活用に向けた熱意を高めていけたらと考えます。

【赤沢森林鉄道 運行情報】

運行期間 : 2025 年 4 月 26 日～11 月 9 日 11 月 10 日以降は冬期運休

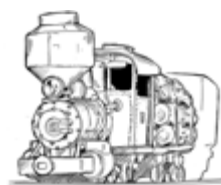
運行時間 : 閑散期＝10:00～15:00 まで 1 時間毎、 繁忙期＝9:30～15:30 まで 30 分毎

料 金 : 中学生以上 1000 円、 4 歳～小学生 600 円

夏休みイベント期間は+200 円

団体 15 名以上 100 円引き、障がい者ご本人半額・介添え者 100 円引

運行情報 : 上松町観光協会 <https://kiso-hinoki.jp/>



団体名

信濃追分駅舎・可惜(あたら)会

〒389-0115

長野県北佐久郡軽井沢町大字追分 1092

Email: mm4007jp@yahoo.co.jp (河合)

信濃追分駅舎新聞 2025年(令和7年)7月 第8号 あたら会発行



Shinano-Oiwake Stationhouse Newspaper 信濃追分駅舎新聞

2025夏「しなの追分日曜朝市」開催

8月3・10・17・24日の各日曜

軽井沢での楽しみ方の提案として「さわやかな朝を楽しむ」をテーマにしている朝市が今年も開催されます。会場は信濃追分エリアで、追分宿と信濃追分駅になります。

追分宿会場

7時～11時頃

おにぎり、カレー、天ぷら、ワッフルなどのキッチンカーはじめ、ドーナツや天然酵母パン、お菓子、コーヒー、クラフト、雑貨、鹿のペットフードなど魅力的なお店が約30店出店します。その日の朝採りたての新鮮野菜や、ほかでは味わえない追分日曜朝市ならではの打ち立て「朝そば」が毎年大人気です。



追分宿会場風景

信濃追分駅会場

10時～14時頃

無人駅の信濃追分駅は朝市開催日に臨時窓口をオープンします。窓口には駅員さんがいてきっぷを買ったことができます。また駅舎はギャラリーカフェとして開放されるので、百歳をこえた懐かしい高原の木造駅舎で、くつろぎのひとときを過ごすことができます。

駅の臨時窓口営業(10時00分～14時00分)

・硬券入場券・乗車券発売



駅舎ギャラリー(イメージ)



人気のそばとよろず相談ブース

復刻駅スタンプ設置
駅舎ギャラリーカフェ

- ・杉崎行基写真展
- ・池田陽子写真展「昭和40年代信濃追分駅」
- ・信濃追分駅歴史展示コーナー
- ・あたら会グッズ販売
- ・寿美屋特製「おはき」お弁当三販売、など(予定)

信濃追分駅 来訪記念券

信濃追分駅は百二歳になりました!

信越本線信濃追分駅は、大正12年(1923)10月1日に開業し、令和5年(2023)に百歳を迎えました。現在の木造駅舎もその際に建てられたもので、今年で百二歳になります。

は駅で結婚式もありました。浅間山を背景に駅名看板のある風景は、高原の駅・信濃追分のよき景観を未来永く後世に伝えてくれることでしょう。

百歳のお祝いとして地元協力を得て国鉄駅名看板を復刻し、軽井沢町商工会西支部から、しなの鉄道へ贈呈され、昨年



絵葉書(大正末期)



信濃追分駅でのウェディングフォト撮影



木造百年駅舎でのライブ。ギター1本に歌声。地元のミュージシャンを中心に、運がよければ昼下りの駅舎で極上のひとときを過ごせます!



湘南色に塗装された115系



国鉄時代の復刻駅スタンプ設置

団体名

足久保鐵道株式会社

〒 420-0905

Tel : 054-261-7444 Fax :

URL: <https://www.facebook.com/ashikubotetsudo>

Email : tamai-h@tokai.or.jp

担当者: 玉井 宏 政

今年はアント20Wの修復に取り組んでいます。加水分解により崩壊した動輪踏面を修復しています。



団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 Tel : 0547-45-4113 Fax : 0547-45-4115 URL : oigawa-railway.co.jp Email : yoshihide.kamoda @daitetsu.jp 担当者：鴨田善英
-----	-----------	---

大井川鐵道は、令和7年3月10日、創立100周年を迎えました。沿線地域の皆様をはじめ、鉄道ファン、観光のお客様のおかげと心より感謝申し上げます。これまで築いてきた先人たちの勇気と努力に敬意を払い、次の世代に向けて SL 列車、旧型客車を動態保存するパイオニアとして、これからも鉄道文化遺産の保存と技術継承に取り組んで参ります。

■2025.3 月 プルートレイン塗装

リニューアルされた西武系機関車「ED31 4」を運用開始しました。



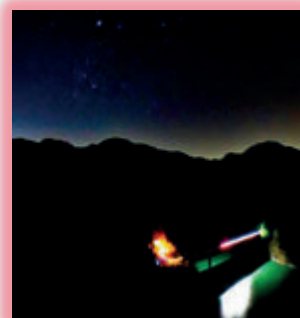
■2025.7 月 12 系客車を導入

西日本旅客鉄道(株)が保有しておりました急行形客車「12 系」5 両を譲り受けました。今後は大井川鐵道本線で動態車両として活用して参ります。



■2025 年度「きかんしゃトーマス号」、「きかんしゃトビー号」、「星空列車」の運行

2025 年 4 月 26 日～12 月 25 日までの 144 日間運転を予定しております。井川線では、トーマスのキャラクター「きかんしゃトビー号」も運転。また、例年好評をいただいている「星空列車」は、2025 年 10 月 18 日～2026 年 3 月 1 日までの土・日曜日(年末年始を除く)に運転予定です。



■2024.12 月～2025.8 月新企画実績

大井川鐵道に乗って楽しむ！ 地域ならではの魅力を体験できる新たな観光列車を運行！！

①Train Dining オハシ



②夜行列車



③鳥塚社長がご案内するぶらり途中下車の旅



④鶏飯電車



⑤夜桜ビール列車



⑥ビール列車



⑦山岳夜行



団体名	東海旅客鉄道株式会社 リニア・鉄道館	〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭三丁目2番2号 Tel : 052-389-6112 Fax : 052-389-6115 URL : https://museum.jr-central.co.jp Email : museum@jr-central.co.jp 担当者：〔運営企画・学芸〕 松井
-----	------------------------------	--

○入館料
 大人 1,200円(団体1,000円)
 小中高生 500円(団体400円)
 幼児(3歳以上) 200円(団体100円)
 ※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
 大人 500円、高校生以下 200円

○開館時間
 10:00～17:30(最終入館は閉館30分前まで)

○休館日
 ・毎週火曜日(祝日の場合は翌日)
 ・12月28日～1月1日
 ※ゴールデンウィーク、お盆、年始期間等是一部火曜日も開館します。開館日はHPの開館カレンダーにてご確認ください。
 ※天候等により臨時休館する場合がございます。

○展示
 鉄道車両39両+バス1台、鉄道のしくみコーナー
 超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ
 シミュレータ、シアターなど



高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア

【2024～2025年の主な活動報告】

○第14回企画展(2025.03.26～2026.01.26)
 東海道新幹線開業60周年までの歩み
 ～2014年から10年間の進化～

○展示車両入替(2025.06.04～2025.06.14)
 ドクターイエローの展示車両を922形から923形へ入替え

- 主な開催イベント
- ・リニア・鉄道館 de ハロウィン
 - ・3館長トークショー
 - ・踏切イベント(クイズラリー・安全教室)
 - ・ドクターイエロー神社
 - ・さよなら2024年、みんなで鳴らす0系新幹線の笛
 - ・鉄道のお仕事体験
 - ・ロマンスカーミュージアム館長によるロマンスカー講演
 - ・東海道新幹線×大西流星(なにわ男子)タイアップキャンペーン
 - ・Youtuber 西園寺・ZAKI コラボイベント
 - ・超電導リニアパーツ・クイズラリー など



第14回企画展



ドクターイエロー入替え



リニア・鉄道館 de ハロウィン



ドクターイエロー神社



踏切イベント

団体名	博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆
-----	---------	--

<蒸気機関車>

- SL12号のボイラ性能検査を7月31日（木）に実施。
- 2024年より実施しているオーバーホール修理作業を本年も継続。
- 本年は熱中症対策を含む安全面への配慮から7月21日～9月30日までSLの運行を休止。
- 転車台不具合の為、SL名古屋駅発SL東京駅行は逆機運転で運行中。※現在、転車作業は実施していません。
- （株）JR西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。



ボイラ性能検査風景

<ハフ11・13・14>

- （株）JR西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<京都市電>

- 明治村開村60周年記念イベントとして6月7日（土）～7月6日（日）まで期間限定で「京都市電花電車運行」を実施。
- （株）JR西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<設備工事・点検>

- 名鉄E1エンジニア（株）による電路・変電所設備点検を半年に1回実施。
- 矢作建設工業（株）による軌道点検整備を半年に1回実施。

<蒸気機関車及び京都市電の動態展示>

蒸気機関車 SL12号が3両の客車を牽引します。※SL9号は現在オーバーホール実施中。

片道 大人 700円 小学生 500円

京都市電 1号車と2号車のどちらか1両が運行します。

1乗車 大人 500円 小学生 300円

SL市電一日券

乗り降り自由 大人 1,000円 小学生 700円



SL12号



京都市電（花電車）

団体名



〒487-0004 愛知県春日井市玉野町 1660

Tel : 090 - 4860 - 4664

URL : <https://aigi-tunnel.org/>

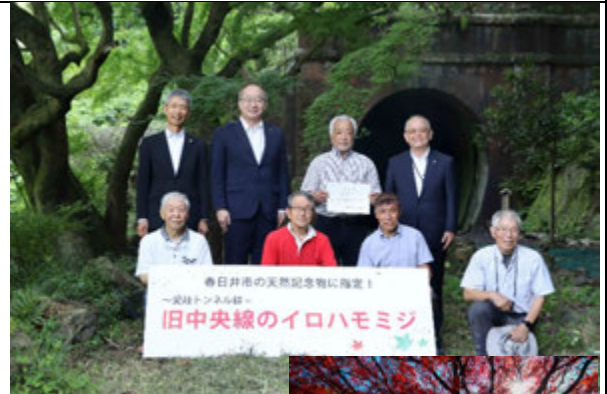
Email : muramasa@mc.ccnw.ne.jp

担当者：村上 真善

廃線の天然モミジが

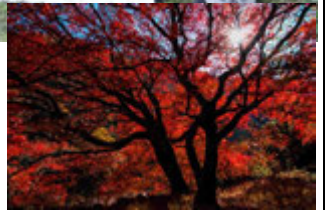
市・特別天然記念物に指定！

1. 7^{キロ}の廃線上には 300 本ものモミジが自生していますが、そのマザーツリーでもある愛知県下最大級の“大モミジ”が記念物指定されました。秋の紅葉は息をのむばかりの絶景です。



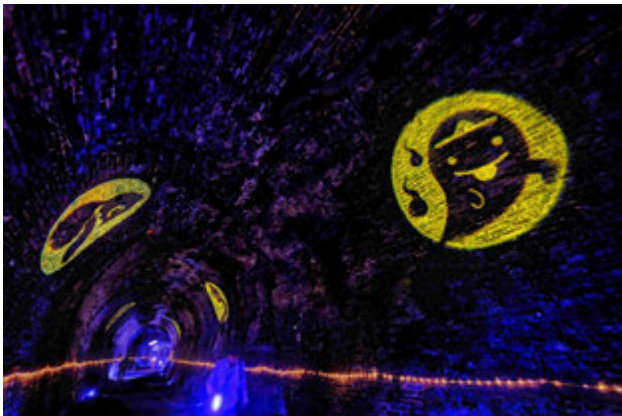
昨秋の一般公開はパニック！

開門早々から入場者が押し寄せ、入口前通路には350mの行列が出現し、昼まで途切れることがありませんでした。JR東海・名鉄・近鉄各社が協力していただきPRを繰り広げたことが要因か。9日間の期間入場者は過去最多 34,000 人、累計でも40万人を突破しました。今秋 11/29～12/7 の秋の公開・・・が恐ろしい！



公開期間中の新アトラクションが登場！

TDLのごとく新設目白押し！ 鉄道遺産に新たな息吹を・・・と既報の通りやっちゃいました。



妖怪隧道



300mのトンネルの中に愉快的妖怪が出現。8匹？のキャラには子どもだけでなく大人たちも楽しんで。反響のよさに気をよくして今秋はさらに増員を計画中です。

自転車通行システム 実験線

いまだ未開通（未開拓）の 600mのトンネル内を安全に通過するための方策を研究していますが、その実験線を公開期間中に開設。

30mあまりに一本ガイドレールを敷き、双頭自転車を走らせました。ターンテーブルも手作りし、連日の行列に大満足・・・誰が？ 作者&乗客です。



団体名	NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク  	〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2 Tel : 0578-82-6677 Fax : 0578-82-6677 URL : https://rail-mtb.com Email : info@rail-mtb.com 担当者：まちづくり部 四十竹・藤田・谷村
-----	--	--

第 16 回 枕木交換会を開催しました



2025 年 6 月 8 日（日）、一般のお客様を募集して枕木交換会を開催しました。今年はお一人様から家族連れの方まで約 30 名様に参加していただき 4 本の枕木を交換しました。天候に恵まれたものの、暑い日の開催となり皆で汗を流しながら枕木を交換しました。おくひだ号にも乗車し、楽しく保線活動をいたしました。ご協力ありがとうございました！

運転体験

昨年度から始めた DD-132 の運転体験、ありがたいことに DD の調子もよく、今年度も開催しております。今年度は現在計 3 回運行しており、おくひだ号の運転体験に来てくださる常連さん達にも好評です。

今後も様子を見ながらではありますが、運行予定です。



2025 年度これからの事業・イベント



【ロストラインプロジェクト】2025 年 10 月 18 日

昨年は旧奥飛騨温泉口駅～国境橋までの旧神岡鉄道全線のほとんどを使用したガッタンゴーの運行を実施しました。今年は全線の走行ではなく、旧漆山駅～旧奥飛騨温泉口駅までの区間でガッタンゴーとおくひだ号の乗車（往復）、そして地域の歴史を感じられるウォーキングができるイベントを予定しています。

長浜鉄道スクエア

Nagahama Railway Museum

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番41号（JR長浜駅から徒歩3分）

TEL.0749-63-4091 FAX.0749-64-0396

<http://kitabiwako.jp/tetsudou/>

名誉館長 米山 淳一（日本鉄道保存協会 事務局長）

館長 梅園 いつ子（公益社団法人長浜観光協会 事務局長）

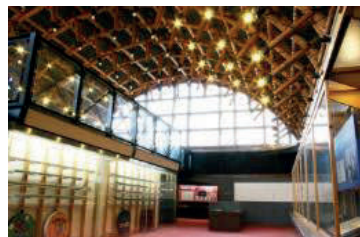
担当者 中川 岳人（公益社団法人長浜観光協会）



■旧長浜駅舎 明治15(1882)年3月10日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。1983年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。2020年6月19日、旧長浜駅舎を含む鉄道遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」が認定されました。2022年は、鉄道150年と同時に長浜駅開業140年の記念の年となりました。

■長浜鉄道文化館 公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として2000年10月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

■北陸線電化記念館 鉄道文化館と同様の趣旨で2003年7月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示しています。



2024年度 開催企画展・イベントなど

【企画展】

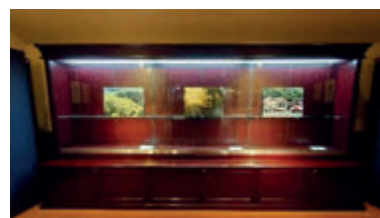
- 北陸新幹線敦賀駅開業記念企画展「敦賀と北陸線」【2024/4/6～6/30】
- 関田克孝コレクション「絵本、図鑑に見た鉄道の夢と記憶展」【2024/7/13～9/29】
- 東海道新幹線60周年記念展「みんなの新幹線展2024」【2024/10/5～12/28】
- 第4回長浜鉄道スクエア鉄道写真コンテスト作品展【2025/1/10～3/31】



第4回長浜鉄道スクエア写真コンテスト
最優秀賞「いつもの朝」

【イベント】

- 北陸線電化記念館20周年記念「鉄道スクエアイベント～夏～」【2024/6/22】
- 長浜鉄道スクエアナイトミュージアム【2024/9/13～9/29（金土日）、2025/1/25～2/24（土日祝）】※初開催



2025年度の事業・イベント

【現在開催中】■鉄道フォトライター辻良樹氏と北川純一コレクション鉄道資料展【2025/10/4～12/28】

【現在募集中】■第5回長浜鉄道スクエア 鉄道写真コンテスト

募集テーマ：ふるさとの駅と鉄道

募集期間：2025/11/30まで

審査委員：委員長 猪井貴志氏（鉄道写真家）

委員 山崎友也氏（鉄道写真家）

委員 米山淳一氏（長浜鉄道スクエア名誉館長）

賞：最優秀賞・・・1名／優秀賞・・・1名／長浜鉄道スクエア賞・・・1名／入選・・・27名



【イベント】■鉄道の日記念「鉄道スクエアイベント2025」【2025/10/18】

公益社団法人長浜観光協会

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町3-24 えままちテラス長浜

TEL.0749-53-2650 FAX.0749-53-3161

E-mail. kankou@kitabiwako.jp <https://kitabiwako.jp/tetsudou>



日本遺産
JAPAN HERITAGE

■2024年度の活動経過

2024年度は、開館20周年事業で、旧関西鉄道鉄製有蓋車下回り復元作業進行した。



旧関西鉄道鉄製有蓋車復元中
台枠・下回り接合作業
2025/2/11

■2025年度の活動計画

2025年度は、旧関西鉄道鉄製有蓋車下回り復元作業完了の披露、同企画展(5～10月開館日)を行う。



関西鉄道鉄製有蓋車下回り復元完了
2025/6/5

◆2025年度定期開館日

2025年4月6日(日)、5月4日(日)、6月1日(日)、7月6日(日)、8月3日(日)、9月7日(日)、10月5日(日)、
11月2日(日)、12月7日(日)、2026年1月11日(日)、2月1日(日)、3月1日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒600-8835 京都府京都市下京区観喜寺町 Tel : 075-313-3374 URL : https://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : hotaka-kawaguchi02@westjr.co.jp 担当者：川口 穂高
-----	-------------	---

1. 京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)が所管する
京都鉄道博物館は、2025年4月に開業9周年を迎えました。

京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「SLスチーム号」や「引込線車両展示」、現役のJR社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

SLスチーム号



運転シミュレータ



鉄道ジオラマ



引込線車両展示



他社とのコラボ



鉄道お仕事体験



381 系特急形電車

C51 形蒸気機関車と
センチュリー

2. 鉄道文化活動

JR西日本では、専門の部署を設け京都鉄道博物館を中心に当社エリア内の鉄道文化財を保存・管理し、これらを活用する鉄道文化活動を推進しています。

当社エリア内の鉄道文化財(例)



マイテ 49 形 1 号車



和田岬線旋回橋

団体名



公益財団法人
交通文化振興財団

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4 丁目 2-26
天神第一ビル 1004 号室
Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114
URL : <https://www.tcpf.or.jp/>
担当者：事務局交通資料調査センター

○交通資料調査センターの活動

当財団の交通資料調査センターでは、交通の歴史と文化を未来へ継承するために、交通に関わる歴史資料の収集・保存や各地に残されている歴史遺産の調査活動を実施しています。

歴史資料の収集・保存

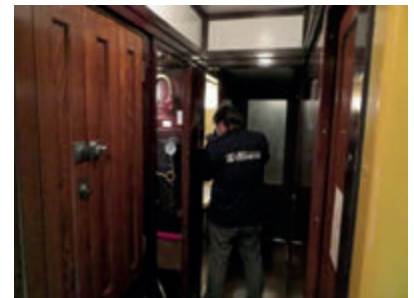
交通の歴史や文化に関わる文書類、写真、記念品、記録、文献等の資料類の散逸を防ぐため、それら資料の収集・保存を実施しています。収集方法は主に皆様からの寄贈で、昨年度は55件約9,800点の資料を寄贈いただきました。また、所蔵資料のデジタルデータ化を進め、その一部は、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」で公開しています。

交通文化振興財団デジタル資料館は
こちらから⇒



歴史遺産調査

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録にして後世に伝える活動を進めています。他団体様からの依頼による調査や共同での調査にも対応しておりますので、お気軽にご相談ください。



交通の歴史遺産や歴史資料の保存・活用の意義を周知するため、外部企画への資料協力や web セミナー、他団体様と共同での講演会・見学会なども行っています。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

交通文化振興財団



団体名



旧加悦 S L 広場

宮 津 海 陸 運 輸 (株)

〒629-2251 京都府宮津市字須津413

TEL 0772-46-1155 FAX 0772-46-1166

近 況

■ 旧加悦 S L 広場〔全27両〕の車両譲渡状況のご報告

加悦鉄道車両群を1両でも多く残すべく、NPO加悦鉄道保存会様をはじめ、各方面の皆様からのお力添えを頂きながら譲渡、協議を進めております。

昨年度は4号機関車を無事に引渡す事ができ、計14両の譲渡が完了しております。

保存にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

下記情報は2025年8月31日現在

① 保存譲渡 完了 11車両

	車両名	所有者・保存先	地域
1	123号蒸気機関車	与謝野町（加悦鉄道資料館 旧加悦駅舎）	京都府
2	ハブ3木造客車		
3	ハ4995木造客車		
4	103号蒸気機関車	長門ポッポを守る会（道の駅 蛸街道西ノ市）	山口県
5	1216号蒸気機関車	個人有志 * 未公表	関西
6	ハ21木造客車		
7	DC351 ディーゼル機関車	五戸町（ごのへ郷土館）	青森県
8	TMC100モーターカー	若線 S L 遺産保存会（若桜鉄道八東駅）	鳥取県
9	京都市電 N 5 号	(株)西鶴（和泉市 ハピネスパーク霊園 内）	大阪府
10	ワブ3	NPO貨物鉄道博物館	三重県
11	キハユニ51ディーゼルカー	個人有志（車両ヤード福岡）	福岡県
12	ト404貨車	(一社)南部縦貫鉄道レールバス愛好会	青森県
13	KD-4ディーゼル機関車	(株)ワンマイル（車両ヤード福岡）	福岡県
14	4号蒸気機関車	加悦鉄道4号機関車保存会（ぽっぽの丘）	千葉県

② 保存譲渡 内定 13両

（保存地域は現段階の引受者様の計画場所）

	車両名	譲渡・保存先	保存地域
1	キハ1018ディーゼルカー	* 未公表	関西
2	キハ083ディーゼルカー	* 未公表	関西
3	DB202ディーゼル機関車	* 未公表	調整中
4	モハ1202電車	* 未公表	調整中
5	サハ3104（改造車）	* 未公表	調整中
6	キハ101ディーゼルカー	* 未公表	関西
7	ハ10木造客車	* 未公表	関西
8	C57189蒸気機関車	* 未公表	関西
9	キ165ラッセル車	* 未公表	関西
10	C58390蒸気機関車	* 未公表	中部
11	ヨ2047車掌車	* 未公表	中部
12	DB201ディーゼル機関車	* 未公表	関西
13	フハ2木造客車	* 未公表	関西

以上

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 加悦鐵道保存会</p>	<p>〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町加悦 433 番地 旧加悦鐵道加悦駅舎 Tel: 0772-43-0232 Fax: 0772-43-0232 URL: http://kayatetsu.web.fc2.com/ Email: k8hozon@gmail.com 担当者: 上野山 博己</p>
------------	------------------------------	---

加悦鐵道保存会は京都府の与謝野町にある「加悦鐵道資料館」を拠点に、「加悦鐵道資料館」の運営管理をはじめとした加悦鐵道遺産の保存・継承及び、与謝野町で保存されている車両の維持・管理を行っております。また、与謝野町内の様々なイベントにも参画し、地域を盛り上げる活動も行っています。

【 2024年9月～2025年8月までの主な活動報告 】

○旧加悦SL広場の草刈りをはじめとした維持活動

閉園したSL広場から搬出のサポート及び保存会に譲渡された資機材の整備をおこなっております。



○屋外展示車両の維持管理

昨年度に引き続き、町所有の「123号蒸気機関車(加悦2号機関車)」「ハブ3 荷客車」「ハ4995客車」の日常清掃を含む維持管理を加悦鐵道保存会で本格的に行っております。また、C160蒸気機関車の整備も引き続き実施しています。



○旧加悦 SL 広場のジオラマ作成

閉園した加悦 SL 広場の在りし日の姿をジオラマとして作成し、加悦鐵道資料館に展示しております。



○各種イベントへの参画・独自開催

与謝野町内で毎年開催されている「きものでぶらり♪ちりめん街道」への参画や、当会で保有しているライブsteamやバッテリーカーを使用したミニ列車運転会を開催しました。



来年、加悦鐵道は開業100周年を迎えます。イベントも開催予定ですのでご期待ください。

<http://kayatetsu.web.fc2.com/>

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場 企画政策課内
TEL:0858-82-2231
FAX:0858-82-0134
E-mail:kikaku@town.wakasa.tottori.jp

若桜鉄道を応援するトークイベント『若桜でとことん鉄道ばなし』開催



令和6年11月2日、若桜町内で『若桜でとことん鉄道ばなし』を開催しました。

桂梅園治師匠の鉄道創作落語、沿線活性化団体によるトークショー「I LOVE "WAKATETSU"」など盛りだくさんでした。

が、あいにく当日は天候不順により集客はかきませんでした。しかし、沿線団体によるトークショーは初めての試みです。若桜鉄道ならではの強みやありかたについて活発に意見が述べられ、現状を維持しながら今あるものを活用し、「心のふるさと」の情景としてそれらをどう見せていくかが大事、という認識で一致しました。今後の各団体の活動に注目です。

沿線景観改善活動

当会では若桜駅構内への鯉のぼり設置や沿線の花植えなどの活動を行っております。



C12・DD16の体験運転のご案内

若桜鉄道では若桜駅構内でSL・DLの体験運転を行っております。事前の申し込みが必要となりますので、若桜鉄道HPよりお申し込みください。

料 金:SL12,000円/1名 DL13,000円/1名

開催日:4~10月第3土曜日・第4日曜日

開催日時、使用機関車など詳しくは若桜鉄道(株)へお問い合わせください。

団体名	山口線 S L 運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 083-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ E-mail : c571@c571.jp 担当者：武安 つとむ
-----	-----------------	---

SLやまぐち号運転再開記念出発式を実施

○令和7年5月3日（土・祝）、令和7年度SLやまぐち号の運転開始を記念して、新山口駅で出発式を実施しました。

○記念式典では、「SL やまぐち号応援バンド」によるお出迎えの演奏、関係者による観光パンフレット配布、ノベルティ配布でお客様をおもてなし。式典出席者による挨拶を頂戴し、出席者、SLアテンダント他、関係者との記念撮影を実施。JR 西日本山口電機区区長 山根宏様、当会会長山本 英明による出発合図のもと、D51-200号機の豪快かつ高らかな汽笛がSLやまぐち号令和7年度の運転開始を初夏の山口線沿線に告げました。

○式典には山口県PR本部長「ちょるる」と山口市の天然記念物「オゴオリザクラ」の妖精、「おごりん」が駆けつけました。

※10月1日に山口デスティネーションプレキャンペーンスタートを記念してSLやまぐち号特別運行を行います。



SLやまぐち号アテンダント乗車

○SLやまぐち号運転日、下り列車のみ毎月1回山口県立大学生によるアテンダントを実施しています

大正ロマン風に扮したアテンダントが、ご乗車いただいたお客様に列車の終点津和野のみどころを記載した「津和野の歩き方」のチラシやお子様に「ふくだるま」をプレゼント。また停車時分のある駅では記念写真のお手伝いやアテンダントと一緒に記念写真を撮影したりとお客様の旅の思い出づくりに大活躍しています。



最新の情報は、公式HPからご確認ください！



SLやまぐち号

検索

団体名

愛媛県西条市
鉄道歴史パーク in SAIJO

〒793-0030

Tel : 0897-47-3855

Fax : 0897-53-6200

URL : <https://s-trp.jp/>

Email : tetsudobunka@saijo-city.jp

担当者：西条市観光振興課 能智 泰良

愛媛県西条市のＪＲ伊予西条駅に隣接する鉄道歴史パーク in SAIJO は、新幹線の父・十河信二氏ゆかりの地に誕生した四国初の本格的な鉄道資料館「四国鉄道文化館（北館・南館）」と「十河信二記念館」、鉄道グッズや特産品を販売する「観光交流センター」からなる西条市の観光・交流エリアです。

十河氏の象徴とも言える０系新幹線電車をはじめ、ＤＦ５０形ディーゼル機関車１号機、Ｃ５７形蒸気機関車、キハ６５形急行用気動車、ＤＥ１０形ディーゼル機関車１号機、フリーゲージトレイン第２次試験車の計６両を展示しています。

1 伊予西条鉄道フェスタ２０２４

１１月３０日と１２月１日の２日間にかけて鉄道フェスタを開催。JR 四国協力のもと、鉄道ホビートレインの展示・記念運行、保線車両や軌陸車の展示、ミニ SL 乗車会、H0 ゲージ鉄道模型走行会などの楽しい鉄道イベントを実施し、延べ、２，３２１人の来場者で賑わいました。



2 ミニ SL 乗車会

四国鉄道文化館南館には総延長２３５メートルのミニ SL 用軌道を敷設しており、乗車会を開催している。四国ミニ SL 倶楽部の協力のもと、月によって１～２台編成の規模縮小版の乗車会、５～１０台編成の乗車会を実施し、毎回大勢の家族連れで賑わっています。



3 通票閉塞器体験セミナー

かつて四国内で使用され、長らく倉庫で眠っていた『通票閉塞器』を日本鉄道保存協会の会員各所のご協力をいただき、実際に２台が連動して可動するよう整備しました。懐かしい音とともに「通票閉塞方式」を体験することができます。



4 ０系ぶらす

０系新幹線のお掃除会＆勉強会を３か月に１回実施しています。新幹線についてのお勉強をしたあと、客室や車体などのふき掃除、汽笛吹鳴、連結器出し入れ作業などが体験できる、チビっ子たちに好評のイベントです。

（他に、「Ｃ５７ぶらす」や「ＤＦ５０ぶらす」を行っています。）



5 軌道自転車体験乗車会

館内には、ＪＲ四国の伊予西条駅の構内からの、「引き込み線」があり、その一部を使い、軌道自転車（通称：レールスター）の体験乗車会を実施しています。保線作業や線路巡回などで使用されていた４人乗りのレールスターで、ガタゴトと線路の継ぎ目を感じながらの走行を体験できます。



団体名

宇高連絡船愛好會

〒706-0011

Tel : 090-1337-7660

Fax :

URL : ukourenrakusenaiko.wixsite.com

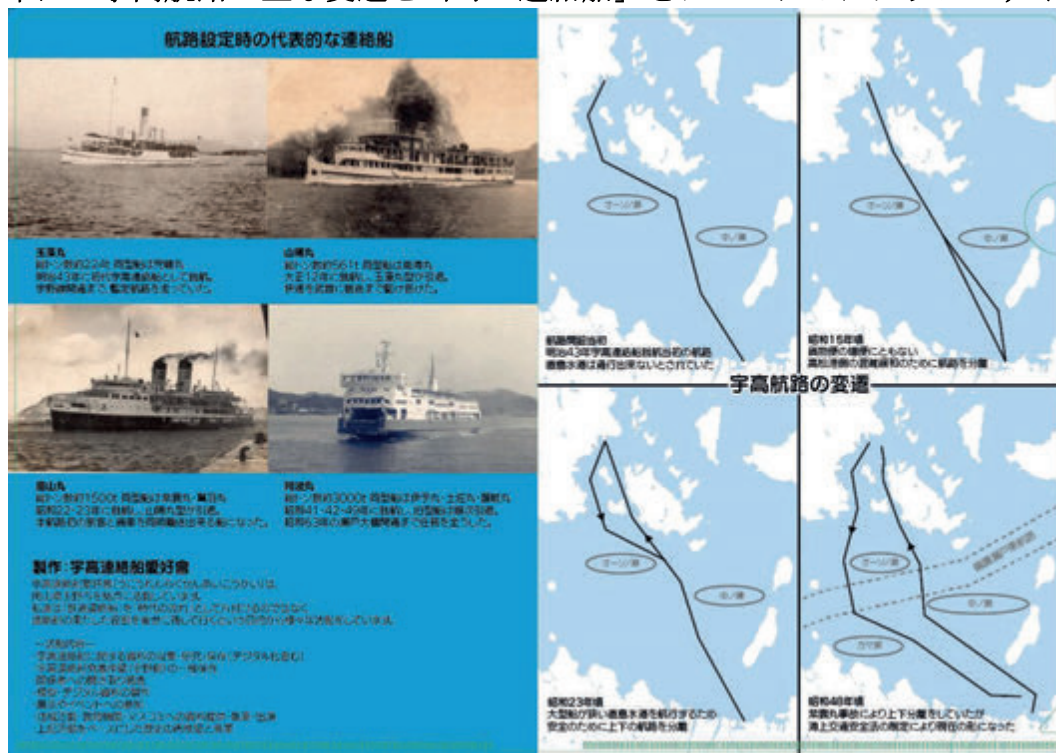
Email : aikoukai@tamano.or.jp

担当者：三村 卓也

鉄道連絡船というジャンルが消えて37年、当時を知る人も段々少なくなってきました。それに加え、宇高連絡船に限って言えば、資料も既刊書籍の内容も断片的であります。最近、同船に関する問い合わせに対し、当方の勉強不足・知識不足に悩まされる事があります。本會では、今迄も資料収集・調査・保存を行っていましたが、本年より同航路の民間フェリーも含めて、関連資料（特に写真や時刻表や切符）を重点的に収集する事を目標にしています。また、長年秘密保管していた鋼製防舷材の活用も検討していこうと考えています。



また、年1作のペースで「学べるグッズ」も作成し、頒布しています。今年は「宇高航路の主な変遷と当時の連絡船」をテーマにしたクリアファイルです。



會員からは「親しみやすくソフトなものを」という要望が強いのですが、會長の拘りである、「何らかのメッセージが入ったデザイン」を譲るつもりは無く、今後も「えっ、そこ？」というニッチな作品を展開するつもりです。

北九州線車輛保存会

お問合せ

〒818-0003

福岡県筑紫野市大字山家4930-1

07041717738 代表 手嶋康人

teshi729@gmail.com

2025年活動報告



私達は元西鉄北九州線の保存を行う団体です。
現在北九州線621号、北方線324号、筑豊電鉄2002、福岡市内線507号、花電車を保有しています。

2025年活動内容 324号側面修繕



下地塗料塗装後



完成

保存車輛ヤード福岡活動報告2025年



桂川側12m留置線延伸工事中

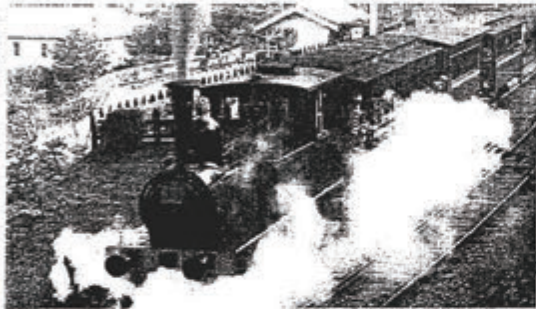


日本鉄道保存協会の 設立について

財団法人観光資源保護財団
(日本ナショナルトラスト)

事業課長 米山淳一

▶明治村 (同黄 棕生氏)



▲設立総会、壇上に並ぶ関係者 (撮影 伊藤栄一氏)

「鉄道ルネッサンス」とやらで鉄道が交通輸送の有効手段として見直され、次々に新しい車両が生まれ、若い女性の間でも話題になっているという。また一方では、鉄道近代化の波の中で消えていったSLの復活運転も華やかにマスコミをにぎわしており、これに伴い歴史的な車両・施設・構造物への関心が高まりつつある。まさに、「鉄道復権」の動きがさまざまなかたちで輝き始めている。

このような情勢の中、去る四月九日、日本鉄道保存協会が設立された。これは全国各地でSL、旧型客車、電気機関車、ディーゼル車他、歴史・文化的価値の高い車両を動態保存している団体が寄り集まって設立された、連絡協議会的性格を重視した団体である。モデルはイギリスの保存協会で、将来にわたる動態保存を進める上で今後重要な役割を担うことになる。

当日は、日ごろから熱心に動態保存を進める一二団体が全国から参加し、東京ステーションホテルで設立総会を開催、同協会の設立目的、性格、規約、役員の選出等が話し合われ、無事終了し設立の運びとなった。設立総会終了後は、お披露目を兼ねた記念イベントとして「夢を乗せて走る歴史的鉄道車両」を開催。講演、参加団体の紹介、映画の上映を行

い会場から大きな激励を受けた。

◎設立までの経緯

明治村を先駆者とし、当トラストも含め、全国各地で鉄道を文化財の視点でとらえ、観光資源として保存・活用している事例が増えつつある。しかし、鉄道車両の保存は、鉄道に深い関心のある方々だけの趣味の世界にとらわれがちであるのも事実である。「鉄道文化財の保存」であると主張しても、まだまだ一般に言われる文化財のように市民権を得ているわけではない。確かに近代技術の発達史上においても鉄道は常にその時代の先端技術の集積という見方もあり、産業文化遺産のひとつであるという指摘がなされているにもかかわらずなのである。

このような状況の中で、全国で芽ばえ始めた動態保存が単に趣味的に終わってはいけないということで、一昨年二月九日に、当トラストが主催し第二回鉄道文化財を考えるシンポジウムを東京で開催した。この時点でも多くの動態保存の事例が見られ、北は急行ニセコ号C623号の北海道鉄道文化協議会から、南はあそBoyの58654号のJR九州まで一二団体が参加したのである。大きな反響を呼んだことは言うまでもないが、このシンポジウムの提案として出されたのが各団体が手をつなぎ将来にわたる動態保



▲Tトレイン (同 渡辺一男氏)

【組 織】

(会費)

正会員(動態保存団体) 10,000円
賛助会員(一般) 100,000円以上

事 務 局

日本ナショナルトラスト
〒100 千代田区丸の内2-4-1丸ビル4-4
Tel 03-3214-2631代

顧 問

青木栄一(東京学芸大学教授)
小池 滋(東京女子大学教授)
松澤正二(前交通博物館副館長)

会計幹事団体

財団法人博物館明治村
九州旅客鉄道株式会社

幹事団体

大井川鉄道株式会社
丸瀬布町

代表幹事団体

日本ナショナルトラスト

日本鉄道保存協会正会員

(1991.4.1現在)

(団体名)(保存車両)

①丸瀬布町
(森林鉄道雨の宮21号蒸気機関車)

②三笠鉄道記念館
(S 394号SL)

③北海道鉄道文化協議会
(C62 3号SL・SLニセコ号)

④甕れSLC10-8 運営協議会
(C10 8号SL)

⑤ウエスタン村
(15321 ワウバウ号SL)

⑥埼玉県北部観光振興財団
(C58 363号SL他・パレオ
エクスプレス)

⑦日本ナショナルトラスト
(C12 164号SL他・トラスト
トレイン)

⑧上松町
(森林鉄道86号ディーゼル機関車他)

⑨虹の郷
(アーネスト・トワイニング号SL他)

⑩大井川鉄道
(C11 227号SL他・かわね路号)

⑪財団法人明治村
(尾西鉄道12号SL他)

⑫東海旅客鉄道株式会社
(クモハ12形電車他)

⑬なつかしの尾小屋鉄道を守る会
(尾小屋鉄道気動車 121号他)

⑭九州旅客鉄道株式会社
(58654号SL)

存を推進することを目的とした「日本鉄道保存協会」の設立だったのである。

一般に言われる文化財においては、歴史的町並みや民家等を中心に歴史的景観を保全する行政の集まりである歴史的景観都市連絡協議会、歴史的庭園の所有・管理者で構成する文化財指定庭園保護協議会、住民運動の集まりである全国町並み保存連盟などいくつかの連絡協議会的なものが機能している。こう見ると鉄道文化財と言う以上、同じような場をつくることは当然の成り行きであったと言える。ただ、初めてのこともあり、一気に設立では無理があるので、一年間は、「日本鉄道保存協会準備会」を仮に設け、試し運転とばかり、お互いの交流や情報の交換を行うとともに、手づくりの会報も発行してきた。

そして、昨年十月十四日の鉄道記念日に合わせ、大井川鉄道で同会の総会を開催。正式に平成三年四月から「日本鉄道保存協会」を設立し、活動を開始することを決定したのである。

◎未永く、楽しく動態保存を推進

現在、正会員は、予定も含め一二団体である。鉄道会社もあれば、公益法人、行政、住民運動団体とバラエティーにんでいる。しかし将来にわたる動態保存をめざす意気込みは皆同じで、大きな夢も合わせ持っていることも確かだ。お互い単独で活動しては、どうしても弱い。特に資金・技術面は重要な問題となろう。例えば、整備要員の育成、部品の確保など現実的な悩みも多いと聞く。記念イベント後の関係者の懇親会では、早くも各団体の担当者がかなり突っ込んだ技術面での話し合いをしている。

今後は、毎年総会を行うとともに、定期的に会報を発行し、また、多くの支援者を得るための啓蒙的な楽しいイベントの開催のほか、特にセミナー的な勉強の場も設けたい。さらに、先輩格の英国保存協会とも交流を考えている。まだまだ小さな輪が出来あがったばかりであるが、それこそ夢を乗せて走る歴史的鉄道車両の将来にわたる保存・活用をめざしたい。常に楽しさを忘れずに……。



構内すべての線路のPC枕木化作業が完了し、1、2番線とも車両が入線できるように

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目61番地 泰生ビル405号室

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 内

電話／FAX: 045-651-1730

URL <http://www.rpsj.jp/>

mail rpsj.tetsudo.hozon@gmail.com

